

科目名	幼児教育基礎論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科幼児教育専攻の専門科目で、卒業必修科目である。幼稚園教諭免許状と保育士資格取得のための必修科目としての位置付けられて、これから学習していく「幼児教育・保育」領域の基盤となる科目である。

科目の概要

幼児教育・保育にかかわる専門的知識を習得し、過去から現代に至る幼児教育・保育の思想、方法の概略を理解し、保育のあるべき方向の考察ができるようにする。乳幼児の生活実態を理解し、それを踏まえた保育、子育て支援、育児相談等の保育者の多様な責務について理解する。保育の目的と目標、保育のねらいと内容、保育方法、保育の環境、保育計画・教育課程、保育評価についての具体的理解に基づき、保育実践者としての自己のあり方やこれからの学び方について考える。

学修目標

- ・保育の基本的理解を目的とする。
- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における保育の基本について、保育内容と保育方法、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と今日的課題についての理解を深め、これからの保育の展望について、考察ができるようになることを目標に置く。
- ・保育に対する積極的な態度と、自ら考える力を養う。

内容

1	保育とは何か
2	保育の歴史
3	乳幼児の生活と発達
4	子どもと遊び
5	保育所保育指針・幼稚園教育要領の制度的位置づけと成立および改訂の経緯
6	保育の目的と目標
7	保育のねらいと内容
8	保育の環境
9	保育方法の原理
10	保育活動と保育形態
11	保育指導計画と保育・教育課程
12	保育者の役割と保育実践
13	家庭・地域との連携
14	世界の保育・幼児教育
15	保育の今日的課題と未来への保育ビジョン

評価

授業への参加態度や発言（30%）、学期内の小レポート・小テスト（30%）、学期末試験（40%）により評価を行う。
合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】関口はつ江他『保育原理 - 実践的幼児教育論 - 』建帛社

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館

最新保育資料集2011 ミネルヴァ書房

他に適宜プリント資料配布

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

津守真『子ども学のはじまり』フレーベル館

科目名	保育者論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学年	2	クラス	1Aクラス
開講期	前期	必修・選択の別	必修*
授業形態		単位数	2
資格関係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学科専攻専門科目における必修である。保育者の仕事、役割と倫理、職務内容、制度、専門性、協働の在り方について理解することを目的とする。

科目の概要

保育の仕事・保育者に関する具体的なイメージを獲得し、保育者としての在り方を学ぶため、保育の場の事例や保育者養成課程の学生の事例、保育実践を移した視聴覚資料など様々な資料を用いて授業をおこなう。また、受講者自身の進路や職業など将来像の構築と獲得に向け、身近な問題と関連づけながら自己を振り返り考察する機会を設ける。

学修目標

保育者とはどういう存在か、保育者の資質、保育者の専門的成長のプロセスと成長を促す要因について学び、求められる保育者像について理解し具体的に考える。

内容

- 第1回：保育者とは
- 第2回：保育者の仕事と役割、専門性(1)保育士
- 第3回：保育者の仕事と役割、専門性(2)幼稚園教諭
- 第4回：保育の現行制度と歴史
- 第5回：保育者の様々な役割、保育者の倫理、職務内容(研修、サービス及び身分保障)
- 第6回：乳幼児期の子どもにとっての保育者
- 第7回：子ども理解と保育実践
- 第8回：青年期の自己と進路・職業選択
- 第9回：保育者になること、実習での学び
- 第10回：保育者の保育実践と省察
- 第11回：保育における協働と連携
- 第12回：保育者としての学びと専門的成長をめぐる理論
- 第13回：保育者の専門的成長を促すメンタリング、研修
- 第14回：世界の保育者養成と保育者像
- 第15回：総括

評価

授業への参加度、授業終了時のコメントペーパーからなる平常点(20点)、小課題提出(30点)、期末レポート(50点)による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

<テキスト>

秋田喜代美（編）「今に生きる保育者論」（株）みらい

<参考図書>

子どもと保育総合研究所 「最新保育資料集」 ミネルヴァ書房

科目名	保育者論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学年	2	クラス	1Bクラス
開講期	前期	必修・選択の別	必修*
授業形態		単位数	2
資格関係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学科専攻専門科目における必修である。保育者の仕事、役割と倫理、職務内容、制度、専門性、協働の在り方について理解することを目的とする。

科目の概要

保育の仕事・保育者に関する具体的なイメージを獲得し、保育者としての在り方を学ぶため、保育の場の事例や保育者養成課程の学生の事例、保育実践を移した視聴覚資料など様々な資料を用いて授業をおこなう。また、受講者自身の進路や職業など将来像の構築と獲得に向け、身近な問題と関連づけながら自己を振り返り考察する機会を設ける。

学修目標

保育者とはどういう存在か、保育者の資質、保育者の専門的成長のプロセスと成長を促す要因について学び、求められる保育者像について理解し具体的に考える。

内容

- 第1回：保育者とは
- 第2回：保育者の仕事と役割、専門性(1)保育士
- 第3回：保育者の仕事と役割、専門性(2)幼稚園教諭
- 第4回：保育の現行制度と歴史
- 第5回：保育者の様々な役割、保育者の倫理、職務内容(研修、サービス及び身分保障)
- 第6回：乳幼児期の子どもにとっての保育者
- 第7回：子ども理解と保育実践
- 第8回：青年期の自己と進路・職業選択
- 第9回：保育者になること、実習での学び
- 第10回：保育者の保育実践と省察
- 第11回：保育における協働と連携
- 第12回：保育者としての学びと専門的成長をめぐる理論
- 第13回：保育者の専門的成長を促すメンタリング、研修
- 第14回：世界の保育者養成と保育者像
- 第15回：総括

評価

授業への参加度、授業終了時のコメントペーパーからなる平常点(20点)、小課題提出(30点)、期末レポート(50点)による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

<テキスト>

秋田喜代美（編）「今に生きる保育者論」（株）みらい

<参考図書>

子どもと保育総合研究所 「最新保育資料集」 ミネルヴァ書房

科目名	教育課程総論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育・幼児教育におけるカリキュラムの基礎理論を理解し、保育内容の充実と質の向上のための計画及び評価の重要性とその方法について学びます。この科目は幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、これまでに履修した授業内容をふまえて受講することが望ましいでしょう。また、3・4年生の実習で、実践をおこなう際に身につけるべき専門的な保育の視点と実践力の獲得につながります。

講義を通して、教育課程、保育課程の編成と実際、子どもの成長や発達のプロセスと保育の流れについての様々な資料・事例を元に学び、理解を深めます。その上で保育実習記録のふりかえりや指導計画の作成を試み、グループワークや発表を経験することで実践的に学び、保育における計画 - 実践 省察・評価のプロセスを理解することができます。

内容

- 第1回：保育・幼児教育の基本とカリキュラムの基礎理論
- 第2回：保育の日々の生活における遊び・学びの理解と保育者の援助・指導
- 第3回：幼稚園教育要領・保育所保育指針とその変遷
- 第4回：教育課程・保育課程の編成と実際
- 第5回：保育所及び保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義
- 第6回：幼稚園における計画と評価の意義
- 第7回：指導計画（長期的・短期的）の作成と作成上の留意事項
- 第8回：保育における記録と省察
- 第9回：演習（1）記録の実践
- 第10回：演習（2）指導計画作成
- 第11回：演習（3）グループ活動
- 第12回：演習（4）グループ活動
- 第13回：保育における子ども理解と評価
- 第14回：生活と発達の連続性、幼保小の連携
- 第15回：まとめ

評価

授業参加度及び態度(30点)、授業時のグループ活動(20点)、提出課題(50点)による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

<教科書>

神長美津子・塩谷香(編著)「教育課程・保育課程論」 光生館

<参考図書>

幼児理解と評価 文部科学省 ぎょうせい

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	教育課程総論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育・幼児教育におけるカリキュラムの基礎理論を理解し、保育内容の充実と質の向上のための計画及び評価の重要性とその方法について学びます。この科目は幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、これまでに履修した授業内容をふまえて受講することが望ましいでしょう。また、3・4年生の実習で、実践をおこなう際に身につけるべき専門的な保育の視点と実践力の獲得につながります。

講義を通して、教育課程、保育課程の編成と実際、子どもの成長や発達のプロセスと保育の流れについての様々な資料・事例を元に学び、理解を深めます。その上で保育実習記録のふりかえりや指導計画の作成を試み、グループワークや発表を経験することで実践的に学び、保育における計画 - 実践 省察・評価のプロセスを理解することができます。

内容

- 第1回：保育・幼児教育の基本とカリキュラムの基礎理論
- 第2回：保育の日々の生活における遊び・学びの理解と保育者の援助・指導
- 第3回：幼稚園教育要領・保育所保育指針とその変遷
- 第4回：教育課程・保育課程の編成と実際
- 第5回：保育所及び保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義
- 第6回：幼稚園における計画と評価の意義
- 第7回：指導計画（長期的・短期的）の作成と作成上の留意事項
- 第8回：保育における記録と省察
- 第9回：演習（1）記録の実践
- 第10回：演習（2）指導計画作成
- 第11回：演習（3）グループ活動
- 第12回：演習（4）グループ活動
- 第13回：保育における子ども理解と評価
- 第14回：生活と発達の連続性、幼保小の連携
- 第15回：まとめ

評価

授業参加度及び態度(30点)、授業時のグループ活動(20点)、提出課題(50点)による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

<教科書>

神長美津子・塩谷香(編著)「教育課程・保育課程論」 光生館

<参考図書>

幼児理解と評価 文部科学省 ぎょうせい

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後にどのような保育を受けるかということが、その育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を保育することになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書の「おおむね6ヶ月未満」の発達において「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育の専門的な知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができる内容ような授業内容としている。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識を身につけていくことを目標とする。

内容

乳児を対象とした絵本を毎時間紹介し、乳児の視点を体験しながら講義をすすめる。

1. 乳児保育の意義

現代の社会環境 乳児保育の必要性 保育保育所指針における乳児保育

2. 乳児の発達

精神面の発達 身体面の発達 新生児反射と運動発達 言語の発達

3. 乳児の生活

生活リズム 睡眠・覚醒 排泄 摂食 清潔 遊び その他

4. コミュニケーションの発達

保育者と乳児のかかわり 乳児同士の関わり

5. 乳児の保育計画

指導計画 個別の指導計画

その他、適宜参考書の紹介を行う

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。

講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の試験による。出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。毎回のコメント20%、小レポート10%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものとも 012の絵本（該当年度4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後にどのような保育を受けるかということが、その育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を保育することになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書の「おおむね6ヶ月未満」の発達において「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育の専門的な知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができる内容ような授業内容としている。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識を身につけていくことを目標とする。

内容

乳児を対象とした絵本を毎時間紹介し、乳児の視点を体験しながら講義をすすめる。

1. 乳児保育の意義

現代の社会環境 乳児保育の必要性 保育保育所指針における乳児保育

2. 乳児の発達

精神面の発達 身体面の発達 新生児反射と運動発達 言語の発達

3. 乳児の生活

生活リズム 睡眠・覚醒 排泄 摂食 清潔 遊び その他

4. コミュニケーションの発達

保育者と乳児のかかわり 乳児同士の関わり

5. 乳児の保育計画

指導計画 個別の指導計画

その他、適宜参考書の紹介を行う

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。

講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の試験による。出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。毎回のコメント20%、小レポート10%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものとも 012の絵本（該当年度4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 保育士資格に必要とされる専門科目である。乳児全般の基礎と保育について学び、より専門性を高めるための「乳児保育」の科目の基盤となる。

科目の概要 この科目は3歳未満児を保育対象とする科目である。子どもが育つ原点は、乳児期にある。出生後にどのような保育を受けるかということが、その育ちに大きく影響する。故に乳児保育は最も重要な時期を保育することになる。乳児保育は、保育所保育指針解説書の「おおむね6ヶ月未満」の発達において「情緒的な絆」の大切さが詳細に言及され、乳児期の保育の焦点がより明確となった。授業では、まずこの点について学ぶ。また「職員の資質向上」も告示化の対象となっていることを踏まえ、乳児保育の専門的な知識を学習し、より専門的な視点で子どもにかかわることができる内容ような授業内容としている。

学習目標 現在、社会問題となっている虐待等の子どもの成育環境のさまざまな課題をも踏まえ、望ましい乳児保育の在り方を明確にし、必要とされる子どもの見方や捉え方、知識を身につけていくことを目標とする。

内容

乳児を対象とした絵本を毎時間紹介し、乳児の視点を体験しながら講義をすすめる。

1. 乳児保育の意義

現代の社会環境 乳児保育の必要性 保育保育所指針における乳児保育

2. 乳児の発達

精神面の発達 身体面の発達 新生児反射と運動発達 言語の発達

3. 乳児の生活

生活リズム 睡眠・覚醒 排泄 摂食 清潔 遊び その他

4. コミュニケーションの発達

保育者と乳児のかかわり 乳児同士の関わり

5. 乳児の保育計画

指導計画 個別の指導計画

その他、適宜参考書の紹介を行う

評価

積極的な講義参加を期待する。毎講義終了時に質問や感想・意見等を書く時間をとり、翌週にそれらに対応しながら、次の課題へとすすめていく。

講義は一方的なものではなく、お互いに作り上げていくものと考えている。講義に臨む積極性も評価対象の考慮とする。正式な評価は、項目ごとの小レポート及び、全講義終了後の試験による。出席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。毎回のコメント20%、小レポート10%、テスト70%により評価を行い、合格点に満たない場合は再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】監修帆足英一／帆足暁子他編著 『実習保育学』 日本小児医事出版
子とものとも 012の絵本（該当年度4月号から3月号）12冊 福音館書店

【参考図書】その他の絵本等も含めて適宜紹介。

科目名	障害児保育		
担当教員名	柳本 雄次		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育所・幼稚園では、障害をはじめ、特別な配慮や支援を必要とする気になる子どもが増えている。ノーマライゼーション理念、インクルージョン等の国際的動向により、その傾向が加速されるであろう。このため、保育者には障害についての理解とその保育観の形成が不可欠といえる。

本講義では、障害児保育に関連する史的発達、障害児保育の現状と課題、障害特性の理解と支援、気になる子どもへの対応について、を学ぶ。

学修目標は、 障害児保育の実態と課題を理解すること、 障害の特性と支援について理解すること、 気になる子どもの個別の支援計画について理解すること、である。

内容

1	障害児保育とは(関連する用語・概念の整理)
2	障害児保育の歴史と現状
3	人間発達における乳幼児期の重要性
4	障害児保育の場の特徴(1)特別支援学校幼稚部・療育機関
5	障害児保育の場の特徴(2)保育所・幼稚園
6	障害児の保育・教育のカリキュラム
7	障害特性の理解と支援(1)視覚障害・聴覚障害
8	障害特性の理解と支援(2)知的障害・肢体不自由・病虚弱
9	障害特性の理解と支援(3)発達障害
10	気になる子どもとは、その対応
11	指導事例からみた障害児保育
12	個別の支援計画 - 個別の家庭支援計画 -
13	連携事例からみた障害児保育
14	障害児保育における今後の課題
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(40点)と最終週の試験(50点)に、通常の授業態度(10点)を加味して評価を行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】特に指定しません。

【参考図書】本郷一夫編著『障害児保育』建帛社、伊勢田亮他編『障害のある幼児の保育・教育』明治図書

【その他】必要に応じて随時授業で紹介します。

科目名	障害児保育		
担当教員名	柳本 雄次		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育所・幼稚園では、障害をはじめ、特別な配慮や支援を必要とする気になる子どもが増えている。ノーマライゼーション理念、インクルージョン等の国際的動向により、その傾向が加速されるであろう。このため、保育者には障害についての理解とその保育観の形成が不可欠といえる。

本講義では、障害児保育に関連する史的発達、障害児保育の現状と課題、障害特性の理解と支援、気になる子どもへの対応について、を学ぶ。

学修目標は、 障害児保育の実態と課題を理解すること、 障害の特性と支援について理解すること、 気になる子どもの個別の支援計画について理解すること、である。

内容

1	障害児保育とは(関連する用語・概念の整理)
2	障害児保育の歴史と現状
3	人間発達における乳幼児期の重要性
4	障害児保育の場の特徴(1)特別支援学校幼稚部・療育機関
5	障害児保育の場の特徴(2)保育所・幼稚園
6	障害児の保育・教育のカリキュラム
7	障害特性の理解と支援(1)視覚障害・聴覚障害
8	障害特性の理解と支援(2)知的障害・肢体不自由・病虚弱
9	障害特性の理解と支援(3)発達障害
10	気になる子どもとは、その対応
11	指導事例からみた障害児保育
12	個別の支援計画 - 個別の家庭支援計画 -
13	連携事例からみた障害児保育
14	障害児保育における今後の課題
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(40点)と最終週の試験(50点)に、通常の授業態度(10点)を加味して評価を行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】特に指定しません。

【参考図書】本郷一夫編著『障害児保育』建帛社、伊勢田亮他編『障害のある幼児の保育・教育』明治図書

【その他】必要に応じて随時授業で紹介します。

科目名	障害児保育		
担当教員名	柳本 雄次		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育所・幼稚園では、障害をはじめ、特別な配慮や支援を必要とする気になる子どもが増えている。ノーマライゼーション理念、インクルージョン等の国際的動向により、その傾向が加速されるであろう。このため、保育者には障害についての理解とその保育観の形成が不可欠といえる。

本講義では、障害児保育に関連する史的発達、障害児保育の現状と課題、障害特性の理解と支援、気になる子どもへの対応について、を学ぶ。

学修目標は、 障害児保育の実態と課題を理解すること、 障害の特性と支援について理解すること、 気になる子どもの個別の支援計画について理解すること、である。

内容

1	障害児保育とは(関連する用語・概念の整理)
2	障害児保育の歴史と現状
3	人間発達における乳幼児期の重要性
4	障害児保育の場の特徴(1)特別支援学校幼稚部・療育機関
5	障害児保育の場の特徴(2)保育所・幼稚園
6	障害児の保育・教育のカリキュラム
7	障害特性の理解と支援(1)視覚障害・聴覚障害
8	障害特性の理解と支援(2)知的障害・肢体不自由・病虚弱
9	障害特性の理解と支援(3)発達障害
10	気になる子どもとは、その対応
11	指導事例からみた障害児保育
12	個別の支援計画 - 個別の家庭支援計画 -
13	連携事例からみた障害児保育
14	障害児保育における今後の課題
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(40点)と最終週の試験(50点)に、通常の授業態度(10点)を加味して評価を行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】特に指定しません。

【参考図書】本郷一夫編著『障害児保育』建帛社、伊勢田亮他編『障害のある幼児の保育・教育』明治図書

【その他】必要に応じて随時授業で紹介します。

科目名	臨床発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵、佐藤 礼子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

乳幼児期・児童期の子どもの臨床発達心理学的観点から考える。これまでに履修してきた発達に関わる基礎的な知識を土台として、さらに代表的な発達理論について理解を深めると同時に、臨床場面での事例に基づいて障がいについて学ぶ。

科目の概要

理論的背景としてPiaget、Eriksonの主張や、発達心理学の領域で注目されている「心の理論」などについて学ぶ。さらに、さまざまな発達障がいについて理解を深め、障がいをもっている子どもたちの保育・教育や子育てについて考える。

学修目標

- ・発達理論については、授業内に解説される内容をよく復習し、これまでに学んだ知識と有機的に統合する
- ・障がいについては、事例に基づくそれぞれの障がいの特徴を理解し、障がいをもつ子どもへの保育・教育について自分自身で考える力を養う
- ・臨床的な視点から発達をとらえることの必要性について理解する

内容

1	臨床発達心理学総論(長田)
2	Piagetの発達段階論(長田)
3	Piagetの発達段階論(長田)
4	Eriksonの発達理論(長田)
5	Eriksonの発達理論(長田)
6	「心の理論」(長田)
7	「心の理論」(長田)
8	発達障がい総論(佐藤)
9	発達障がい各論 : 広汎性発達障害(佐藤)
10	発達障がい各論 : ADHD(佐藤)
11	発達障がい各論 : LD(佐藤)
12	発達障がい各論 : 発達障がいを持つ子どもを持つということ(佐藤)
13	もう一つの「発達障がい」 : 虐待1(佐藤)
14	もう一つの「発達障がい」 : 虐待2(佐藤)
15	まとめ

評価

平常点(授業内の課題・感想)20点、学期末の筆記試験80点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合には、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 白石正久著 『発達の扉 上』 かもがわ出版
白石正久著 『発達の扉 下』 かもがわ出版
- 【推薦書】 市川宏伸著 『子どもの心の病気がわかる本』 講談社
小西 行郎 『子どもの心の発達がわかる本』 講談社

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この教科は幼児教育学科専門科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプローチばかりでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。

この科目の学修目標は、以下の3点である。

保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と技法についての理解を深める。 幼稚園や保育所,子育て支援センター等における保育現場で求められている保育・教育相談者としての専門性の修得

行為法などのアクションレベルの相談技法の集団における学びに積極的に参加し、日常生活や保育現場での実践力を高める。

内容

まわりの環境に強く規定されやすい子どもの内面への臨床的な理解、心理的援助を学ぶには、子どもと保護者との関係への理解と、保護者への働きかけ方の学びが統合的になされる必要がある。

子どもへの臨床活動と共に保護者との保育・教育相談が展開する保育現場(幼稚園、保育所、地域の子育て支援センターなど)で展開する相談の実際とその特色について、実践事例と対応させながら学ぶ。

保育・教育相談とは

カウンセリングの歴史と広がり

現代社会とカウンセリング

カウンセリングの基礎理論

カウンセリングマインドとは

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク

なぜ保育者に相談者としての役割を担うことが求められるようになったのか

カウンセリング理論を基盤とする保育・教育相談の展開

保育・教育相談の特性に対応した実践理論

実践事例についての事例研究

行為法・心理劇を導入したアクションメソッドによるカウンセリング技法の体験学習

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本

保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際

まとめ

評価

レポート(70%)、講義,グループワークへの参加態度(30%)を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

< 教科書 > 赤井美智子「園における保育相談と地域の他機関との連携」ぶんしん出版

< 参考図書 > 教室で紹介する

科目名	保育・教育相談		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この教科は幼児教育学科専門科目であり、幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目である。

子どもの臨床的な課題と子どもへの心理的援助の方法についての基盤的な理解の上に、保育者は保護者との保育・教育相談をどのように担うべきかという理論と技法の基本を学ぶための教科である。

現代社会では、子どもの臨床的課題の解決、発展には、子どもへの臨床的なアプロ-チばかりでなく、保護者との保育・教育相談、カウンセリングが並行することによる保護者と保育者との連携の必要性がますます高まっている。

この科目の学修目標は、以下の3点である。

保育・教育相談の基本となるカウンセリングの理論と技法についての理解を深める。 幼稚園や保育所,子育て支援センター等における保育現場で求められている保育・教育相談者としての専門性の修得

行為法などのアクションレベルの相談技法の集団における学びに積極的に参加し、日常生活や保育現場での実践力を高める。

内容

まわりの環境に強く規定されやすい子どもの内面への臨床的な理解、心理的援助を学ぶには、子どもと保護者との関係への理解と、保護者への働きかけ方の学びが統合的になされる必要がある。

子どもへの臨床活動と共に保護者との保育・教育相談が展開する保育現場(幼稚園、保育所、地域の子育て支援センターなど)で展開する相談の実際とその特色について、実践事例と対応させながら学ぶ。

保育・教育相談とは

カウンセリングの歴史と広がり

現代社会とかカウンセリング

カウンセリングの基礎理論

カウンセリングマインドとは

カウンセリングの実践展開事例についてのグループ・ワーク

なぜ保育者に相談者としての役割を担うことが求められるようになったのか

カウンセリング理論を基盤とする保育・教育相談の展開

保育・教育相談の特性に対応した実践理論

実践事例についての事例研究

行為法・心理劇を導入したアクションメソッドによるカウンセリング技法の体験学習

相談関係を促進する相談者の関係認識と行為の基本

保育・教育相談と連携する関係機関における発達臨床活動の実際

まとめ

評価

レポート(70%)、講義,グループワークへの参加態度(30%)を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

< 教科書 > 赤井美智子「園における保育相談と地域の他機関との連携」ぶんしん出版

< 参考図書 > 教室で紹介する

科目名	多文化教育		
担当教員名	星 三和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

今後日本の社会はさまざまな文化を背景にもつ人々との共生が一層重要になっていく。保育者・教師には、異文化からの子どもを受け入れる機会が一層増え、彼らの理解がより求められる。また自分の考え方が自文化の中で作られたもので、違う文化では違う考え方があることを知ることは私たちの世界を拡げてくれる。

講義では次のテーマを取り上げる。(1)子どもが文化の中に生まれ育つ社会化過程について、日本、アフリカ、インド、ヨーロッパの比較を通して考える。(2)乳幼児の保育の場での文化の影響を、日本、フランス、イタリアの例を中心に、世界の保育を概観しながら考える。(3)多文化共生のために教育の場でできることを考える。

以上から、学生が多文化共生の考えをもって保育・教育に当たり、多様な子どもたち一人ひとりに即した教育を目指せることを目標とする。

配布資料、映像、図を用いて、できるだけわかりやすい授業をしたい。

内容

1. 世界のさまざまな文化での子どもの育ち
2. 社会・文化のなかの子どもの発達
3. アフリカ、インドの伝統的育児と教育観
4. 欧米の伝統的育児と教育観
5. 日本の育児と教育観
6. 社会化過程の日米比較
7. 保育の場での社会化の日仏比較
8. 世界の幼児教育と文化
9. 多文化多民族社会における保育・教育
10. 多文化共生教育の意味
11. 多文化共生教育の実践例 1
12. 多文化共生教育の実践例 2
13. 日本における多文化共生教育の例
14. 多様性に価値をおき尊重する教育について考える
15. まとめ

評価

試験60%、 小テスト20%、 発表・発言20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 参考文献 東洋 「日本人のしつけと教育」東京大学出版会1994
 泉千勢他「学力とはなにか、世界の幼児教育」明石書店

科目名	児童学研究法		
担当教員名	長田 瑞恵、大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

検査法、質問紙法、観察法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について、よく用いられる方法を中心に概説する。

科目の概要

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

学修目標

- ・授業で解説されるそれぞれの研究法の概要について理解する。
- ・それぞれの研究法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- ・どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

内容

まず、児童学の研究法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、どのような場合にどのような研究法が用いられるのかを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、それぞれの研究法についての理解を深める。

1	児童学の研究法の種類とその必要性
2	児童学の研究法の種類とその必要性
3	質問紙法 : 標準化された質問紙
4	質問紙法 : 質問紙の作成方法
5	質問紙法 : 統計基礎
6	検査法
7	検査法
8	観察法
9	観察法
10	面接法
11	事例研究法
12	実践研究
13	記録法
14	児童学研究法を用いる上での留意点
15	まとめ

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版＜基礎知識と技術習得のために＞』 日本文化科学社

【推薦書】保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

秋田喜代美・藤江康彦（編） 『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科目名	児童学研究法		
担当教員名	長田 瑞恵、大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

検査法、質問紙法、観察法など、子どもをより深く理解するために児童学で用いられる様々な研究法について、よく用いられる方法を中心に概説する。

科目の概要

それぞれの研究法について、研究の具体例を交えながら、その背景にある理論、実際の実施方法、実施に際しての注意点などについて理解し、可能な限り学生自身体験を通して理解を深める。あわせて統計の基礎についても学ぶ。

学修目標

- ・授業で解説されるそれぞれの研究法の概要について理解する。
- ・それぞれの研究法を用いながら実際に自分自身の手でデータを収集し、分析し、レポートにまとめる。
- ・どのような研究テーマにはどのような研究方法が適切か考える。

内容

まず、児童学の研究法の種類とその特徴、長所や短所などを理解した上で、どのような場合にどのような研究法が用いられるのかを理解する。その後、研究例や実際の体験を通して、それぞれの研究法についての理解を深める。

1	児童学の研究法の種類とその必要性
2	児童学の研究法の種類とその必要性
3	質問紙法 : 標準化された質問紙
4	質問紙法 : 質問紙の作成方法
5	質問紙法 : 統計基礎
6	検査法
7	検査法
8	観察法
9	観察法
10	面接法
11	事例研究法
12	実践研究
13	記録法
14	児童学研究法を用いる上での留意点
15	まとめ

評価

授業内のレポート60点、学期末の筆記試験40点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松原達哉 『心理テスト法入門第4版＜基礎知識と技術習得のために＞』 日本文化科学社

【推薦書】保坂亨・中沢潤 『心理学マニュアル面接法』 北大路書房

鎌原雅彦 『心理学マニュアル質問紙法』 北大路書房

中沢潤 『心理学マニュアル観察法』 北大路書房

大野木裕明・中沢潤 『心理学マニュアル研究法レッスン』 北大路書房

秋田喜代美・藤江康彦（編） 『はじめての質的研究法 教育・学習編』 東京図書

科目名	表現演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	教育方法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

内容

- 1 教育の目的と方法
- 2 教育課程の類型：教科主義と開発主義
- 3 カリキュラムの構成要素
- 4 教育方法の歴史的変遷(1)教科主義的カリキュラムと教育方法
- 5 教育方法の歴史的変遷(2)経験主義的カリキュラムと教育方法
- 6 教育方法の歴史的変遷(3)近代の教育カリキュラムと教育方法
- 7 わが国における教育方法の歴史的変遷
- 8 いろいろな教授法(1)学習集団と教授法
- 9 いろいろな教授法(2)教材開発と教具の利用
- 10 いろいろな教授法(2)新しい教授法
- 10 学習指導の技術
- 11・12 学習指導要領の変遷(1)歴史的変遷
- 13 学習指導要領の変遷(2)現行指導要領の特徴
- 14 世界のカリキュラム改革
- 15 まとめ

プレゼンテーションにあわせた資料プリントを毎回配布する。プレゼンテーションファイルはホームページで随時公開している。

毎時間課題プリントを実施する。

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 授業ごとの課題提出(30%)
- 2 最終試験の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない

科目名	教育方法		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、幼児教育現場において必要とされる教育方法理論の基礎知識の獲得を目的としている。特に、子ども観、教育制度およびカリキュラムの変遷と教育方法理論との関係を的確に捉えることとで、より幅広い学習を目指す。

内容

- 1 教育の目的と方法
- 2 教育課程の類型：教科主義と開発主義
- 3 カリキュラムの構成要素
- 4 教育方法の歴史的変遷(1)教科主義的カリキュラムと教育方法
- 5 教育方法の歴史的変遷(2)経験主義的カリキュラムと教育方法
- 6 教育方法の歴史的変遷(3)近代の教育カリキュラムと教育方法
- 7 わが国における教育方法の歴史的変遷
- 8 いろいろな教授法(1)学習集団と教授法
- 9 いろいろな教授法(2)教材開発と教具の利用
- 10 いろいろな教授法(2)新しい教授法
- 10 学習指導の技術
- 11・12 学習指導要領の変遷(1)歴史的変遷
- 13 学習指導要領の変遷(2)現行指導要領の特徴
- 14 世界のカリキュラム改革
- 15 まとめ

プレゼンテーションにあわせた資料プリントを毎回配布する。プレゼンテーションファイルはホームページで随時公開している。

毎時間課題プリントを実施する。

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 授業ごとの課題提出(30%)
- 2 最終試験の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない

科目名	保育方法		
担当教員名	山田 陽子、槇谷 厚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、幼稚園教諭・保育士の資格を得るために必要となる科目です。

幼児期における教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うためにとっても大切です。幼稚園・保育園は、幼児にとって初めての集団生活であり、そこで一人ひとりの成長を願い、ともに生活する保育者の役割はきわめて重要です。その役割を確かめ、幼児期にふさわしい生活を支え、一人ひとりの発達に即した援助ができる保育者のあり方を考えます。

また、幼稚園現場の新鮮な話題や、具体的な日常もたくさん伝えていきたいと思っています。現場を身近に感じ、保育を自分自身の問題として捉え、各自が、自分なりの保育観を描いていかれるように授業を進めていきます。

内容

講義だけでなく、自分の園の行事のビデオを紹介したり、授業の終わりに絵本を楽しむひとときも計画しています。子どもたちの好きな歌や踊りも、時間があれば紹介したいと考えています。

また、授業の終わりに小レポートを提出していただきますが、自分の小さい頃を思い出したり、自分の今の思いをまとめたり、ひとつのテーマについてじっくり考えたりする良い機会になっているようです。

1	幼稚園ってどんなところ? どんな保育者になりたい?	
2	安心して自分らしく過ごすことの大切さについて	
3	“遊び”について考えましょう	
4	三歳児入園当初のビデオを見て考えましょう	
5	人とのかわりについて、トラブルの大切さについて考えましょう	
6	“しつけ”について考えましょう 皆さんの規範意識は?	
7	一人ひとりの成長について	皆さんで歌いましょう!
8	子育てについて、今のお母さんたちの思いに心を寄せましょう	
9	自分の“幸せ体験”について考えましょう	
10	行事について考えましょう・・・行事は生活に変化や潤いを与える・・・はず	
11	運動会のビデオを見て、いろいろなことを感じ、考えましょう	
12	日常の遊びから行事へ	
13	いろいろな子がいる・・・みんなちがってみんないい	
14	“みんなで楽しく音楽会”のビデオを見て、いろいろなことを感じ、考えましょう	
15	個の成長が集団の成長へ 再びどんな保育者になりたい?	皆さんで歌って踊りましょう!

評価

授業の終わりの小レポート(50%)レポート(50%)により評価を行い60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

(参考図書) 『幼稚園教育要領解説』文部科学省

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。

科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。

学修目標 子どもひとり一人を大切にす保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グル - プにおける「テ - マ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎日のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。

科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。

学修目標 子どもひとり一人を大切にす保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グル - プにおける「テ - マ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎日のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。

科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。

学修目標 子どもひとり一人を大切にす保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グループにおける「テ - マ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎日のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決してできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

ピアノを学習したことのない学生は、バイエルの説明を読み、両手で演奏する8番までは独学で進めておくこととし、その先から授業は開始する。

第1・2週でそれまでの学習状況を見て、担当教員が適宜指導をする。

すべての学生のレベルに合わせた個人レッスンで進めていくので、個人レベルの学習に応じて進度が決定されていく。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技評価を行うことで評価を出す。

- ・バイエルピアノ教本終了を評価基準とする。
- ・授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。
- ・家庭学習内容の充実は高い評価につながる。
- ・バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない
- ・上記のものを満たされた場合は、実技評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場においての自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決まてできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

ピアノを学習したことのない学生は、バイエルの説明を読み、両手で演奏する8番までは独学で進めておくこととし、その先から授業は開始する。

第1・2週でそれまでの学習状況を見て、担当教員が適宜指導をする。

すべての学生のレベルに合わせた個人レッスンで進めていくので、個人レベルの学習に応じて進度が決定されていく。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技試験を行い評価する。

- ・ 授業数の三分の一以上の欠席者は、テストが受けられない。
- ・ 出席が満たされても、さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合はテストが受けられない。
- ・ バイエル終了予定で履修をしても、バイエルを終了できなかった場合は、試験を受けることができない

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	A1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。

ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、自立向上していくことに重点を置く。

内容

すでに「ピアノ奏法」を履修済みの学生がさらなるピアノ記述獲得のために履修する。

ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

「ピアノ奏法」と同じく、個人レベルに合わせた1:1の個人レッスン方式で授業を進める。

ピアノ曲も担当ピアノ教員と相談をしながら、個人的な希望、教員の進めたい曲目などを兼ね合わせ楽しく技術が習得できる体制を取っている。

基礎技術をすでに習得しているので、曲目もベートーヴェンやショパン、シューベルト等の代表作曲家からの古典的な作品はもちろんのこと、現代作曲家の新しい作品までクラシカルなものを中心として学習を進めていく。

15週のうち、1週目は個人レベルを決めるための授業となり、また15週目はまとめとして発表会などを催すクラスもある。残り13週で小品であれば2-3週で1曲、それ以上の曲であれば4週で1曲を目指してレッスンを進めていく。個人レベルで担当教員が相談しながら曲決めを行っていく。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという担当教員の指示があっ場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	ピアノ奏法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ピアノ演奏技術の向上を目指して、各自の技術に応じた個人レッスン方式で授業を展開する。各自、自覚ある目標を担当の教員と相談の上、テキストを定め学習していく。

「ピアノ奏法」を取得した学生の更なる向上を目指し、受講する科目である。
ピアノ技術をそれぞれが個人で学びを定め、自立向上していくことに重点を置く

内容

すでに「ピアノ奏法」の単位を取り終え更なる技術習得のため履修を行うものとする。ピアノの運指技術にとどまらず、ピアノ表現さらには音楽表現など高度な演奏技術が習得できるよう履修する。

「ピアノ奏法」と同じく、個人レベルに合わせた1:1の個人レッスン方式で授業を進める
ピアノ曲もピアノ担当教員と相談をしながら、個人的な希望、教員の進めたい曲目などを兼ね合わせ、楽しく技術が習得できる体制を取っている。

基礎技術をすでに習得しているので、曲目もベートーヴェンやショパン、シューベルト等の代表作曲家からの古典的な作品はもちろんのこと、現代作曲家の新しい作品までクラシカルなものを中心として学習を進めていく。

15周のうち、1週目は個人レベルを決めるための授業となり、また15週目はまとめとして発表会などを催すクラスもある。残り13周で小品ならば2 - 3週で1曲、それ以上の曲であれば4週で1曲を目指してレッスンを進めていく。個人レベルで担当教員が相談しながら曲決めを行っていく。

評価

- ・ 授業回数に対して、三分の一以上の欠席は単位を認めない。
- ・ 出席回数が満たされ、さらに毎回の授業の充実が見られた学生は担当教員が成績を出す。
- ・ テストは行わないが、成績は授業に対する意欲と熱意で担当教員が評価を出すことにより単位認定とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	音楽技術A		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』を視野に入れて勉強をして行く。個人レッスン。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。

日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

また、経験者はその先の邦楽曲へと進めていく。2 - 3人のグルーブレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術A		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	B1クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』を視野に入れて勉強をして行く。個人レッスン。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。

日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

また、経験者はその先の邦楽曲へと進めていく。2 - 3人のグルーブレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術B		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学年	3	クラス	A1クラス
開講期	前期	必修・選択の別	選択
授業形態		単位数	1
資格関係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

基本的には「音楽技術A」との関連で授業を進めていくので、「音楽技術A」を関連事項として熟読してもらいたい。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「声楽」

基本的な活動としては「音楽技術A」との関連で、さらなる技術獲得を目指していく。歌における音楽表現をさらに勉強し、表現活動として伝えていく技術に取り組んでいくことが目標である。

「エレクトーン」

エレクトーンとしての演奏技術はいわばエレクトーンという電子楽器の扱いがなされなくてはならない。演奏もさることながら電子音を耳慣れていくことや、リズムをベースに演奏することへの慣れなど学ぶべきことは多い。そういった基本的なことを「音楽技術B」においては演奏を通して学んでいく。

「箏」

箏の演奏は古曲の演奏と、新曲の演奏に大別されると言える。日本古謡や古曲のオーソドックスな演奏形態の学びと、やや新曲といえる現代邦楽の基礎的なところをこの「音楽技術B」でおさえしていく。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術B		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	B1クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

基本的には「音楽技術A」との関連で授業を進めていくので、「音楽技術A」を関連事項として熟読してもらいたい。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「声楽」

基本的な活動としては「音楽技術A」との関連で、さらなる技術獲得を目指していく。歌における音楽表現をさらに勉強し、表現活動として伝えていく技術に取り組んでいくことが目標である。

「エレクトーン」

エレクトーンとしての演奏技術はいわばエレクトーンという電子楽器の扱いがなされなくてはならない。演奏もさることながら電子音を耳慣れていくことや、リズムをベースに演奏することへの慣れなど学ぶべきことは多い。そういった基本的なことを「音楽技術B」においては演奏を通して学んでいく。

「箏」

箏の演奏は古曲の演奏と、新曲の演奏に大別されると言える。日本古謡や古曲のオーソドックスな演奏形態の学びと、やや新曲といえる現代邦楽の基礎的なところをこの「音楽技術B」でおさえしていく。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術C		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

半期を通して、ピアノ技術習得のため、ピアノ実技を勉強していく。ピアノ演奏技術は保育者や教育者の音楽活動には、必要不可欠な要素であると共に、保育現場や教育現場における自己表現の手段として求められるものである。

また、音楽の感性を磨き自己充実を図ることで、演奏をする快さを学び、更なる深い学びを得てもらいたいと考える。自己の中にある音楽をピアノという楽器を媒体として表現するには、伝える手段としての技術を獲得することが表現の喜びを伝える第一歩となるのである。

その基礎的な技術をそれぞれ個人で充実することで授業を進めていく。

内容

バイエル終了後のピアノ演奏、もしくはそれ以上のピアノ演奏を目的とする。

「ピアノ奏法」のなかでバイエルが終了見込みの学生及び、それ以上のレベルを持つ学生が履修する科目である。最初のガイダンスでピアノの担当教員と相談の上で履修登録を進める。半期で終了が見込めない学生は「ピアノ奏法」から取得する。

90分に約6・7人で個人レッスンを行う。授業を受けるにあたり毎回出される宿題を、一週間自己練習を行うことで進めていく授業である。家庭学習で指示を受けたことをこなすことが最も大切な条件であり、授業だけでこなすことは決まてできない。

教本は個人レッスンであるので、担当教員が相談の上曲決めをし、本を指定する。

ピアノを学習したことのない学生は、バイエルの説明を読み、両手で演奏する8番までは独学で進めておくこととし、その先から授業は開始する。

第1・2週でそれまでの学習状況を見て、担当教員が適宜指導をする。

すべての学生のレベルに合わせた個人レッスンで進めていくので、個人レベルの学習に応じて進度が決定されていく。

なお、学内のピアノ練習室はいつでも自由に練習することが可能であり、開門から閉門まで、日曜・祝日及び夏季、冬季、春季などの長期休暇も使用することができる。

評価

実技による評価を行う。

- ・ 授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合、実技評価が受けられないことがある。
- ・ さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も実技評価が受けられない場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術C		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	B1クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『ディズニー』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「箏」

「わらべうた」や「日本古謡」を中心とした日本音楽の実技を箏の演奏で学んで行く。

日本の文化財として大切なわらべうたや古謡は、日本の子どもにとって大切な教材である。その様な歌を箏をとおして楽しく学ぶ。技術に応じて1人～3人までの合奏形態で行う。箏の合奏、箏と尺八の合奏など演奏会の形態も取る。初心者でも箏の演奏は楽しむことができる。

評価

実技による評価を行う

- ・ 授業に関する意欲・関心・態度に欠ける場合、実技評価が受けられない場合がある。
- ・ さらに毎回の授業内容の充実がえられていないという、担当教員からの指示があった場合も、実技評価が受けられない場合がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員より、授業時に使用する教本の指示をする。

科目名	音楽技術D		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	A1クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法 ・ 」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法 ・ 」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「こどものうた」や「童謡」などの演奏を中心に学ぶ。

評価

授業対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員から出される。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術D		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2,3	ク ラ ス	B1クラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

内容

音楽技術Dは下記の内容で、それぞれの実技の勉強をする。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場で大変役に立つ『保育行事の演奏曲』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

・「エレクトーン演奏」

鍵盤楽器の中でもエレクトーンは豊富な音色と、リズムとパーカッションの学びが他の鍵盤楽器には持っていない特色を有する楽器である。

クラシックもさることながら、クラシック以外のジャンルの演奏にこの楽器は大変力を発揮できる。シンセサイザーとコンピューター内臓で演奏の巾が広がり、機械の扱い方も応用できる。

保育現場で歌われる「こどものうた」や「童謡」などの演奏を中心に学ぶ。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許資格を得るために必要な表現系の一演習科目。急速な変化を遂げる現代社会にあって、心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。歌うことを通して潤いのある環境を整えるために、保育者としての的確な表現力や指導力など、保育現場の求めに対応すべく歌唱全般について学んでいく。

授業の概要

受講者の歌唱における到達度を考慮し、音楽的基礎知識及び能力を育成する。またグループ活動によって主体的かつ積極的に関わり作品を創作し、音楽のみならず責任感や信頼感、協調性、コミュニケーション力などを図っていく。

学修目標

- 1、音楽的諸感覚を育み、基礎能力を習得する
- 2、歌唱作品の理解を深め、自己の描くイメージや思いを適格に表す力を身につける
- 3、歌唱を通して意欲や態度を育て、音楽の楽しさを知り、子どもの豊かな遊びへと展開する。

内容

授業計画

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：歌唱の意義について

第 3 回：音楽の基礎知識と楽譜の理解

第 4 回：声の仕組み 呼吸器官・発声器官・共鳴器官

第 5 回：発声法と姿勢

第 6 回：ソルフェージュ 読譜力と各種音感の獲得

第 7 回：音楽リズム ボディーパーカッションによる音とリズムの獲得

第 8 回：子どもの歌唱作品と表現法

- ・作品の理解（歌詞・音楽組織及び音と言葉の関連性）

- ・歌唱の基礎的技術と表現法

第 9 回：子どもの音楽的発達の理解

第 10 回：子どもの音楽と環境

第 11 回：歌唱教材の選択と演習

第 12 回：グループ活動の意義及び事例研究

第 13 回：子どもを対象とする歌唱作品を用いたグループ活動（音楽劇）

- ・ストーリー及び台本作り、歌唱作品の選択、効果音、照明、舞台美術ほか計画立案

第 14 回：グループ毎の実践（創意・工夫）

- ・台本の読み合わせ及び音合わせ。台詞及び演技や踊りを伴った歌唱実践

第 15 回：グループ作品発表

評価

歌唱試験（30%） 音楽鑑賞レポート（20%） グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】

小林美実編「音楽リズム」 中田喜直編「子どもの歌」 全音楽譜出版「コールユーブンゲン」

【参考書・参考資料等】ビデオ・CD等の歌唱作品

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許資格を得るために必要な表現系の一演習科目。急速な変化を遂げる現代社会にあって、心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。歌うことを通して潤いのある環境を整えるために、保育者としての的確な表現力や指導力など、保育現場の求めに対応すべく歌唱全般について学んでいく。

授業の概要

受講者の歌唱における到達度を考慮し、音楽的基礎知識及び能力を育成する。またグループ活動によって主体的かつ積極的に関わり作品を創作し、音楽のみならず責任感や信頼感、協調性、コミュニケーション力などを図っていく。

学修目標

- 1、音楽的諸感覚を育み、基礎能力を習得する
- 2、歌唱作品の理解を深め、自己の描くイメージや思いを適格に表す力を身につける
- 3、歌唱を通して意欲や態度を育て、音楽の楽しさを知り、子どもの豊かな遊びへと展開する。

内容

授業計画

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：歌唱の意義について

第 3 回：音楽の基礎知識と楽譜の理解

第 4 回：声の仕組み 呼吸器官・発声器官・共鳴器官

第 5 回：発声法と姿勢

第 6 回：ソルフェージュ 読譜力と各種音感の獲得

第 7 回：音楽リズム ボディーパーカッションによる音とリズムの獲得

第 8 回：子どもの歌唱作品と表現法

- ・作品の理解(歌詞・音楽組織及び音と言葉の関連性)

- ・歌唱の基礎的技術と表現法

第 9 回：子どもの音楽的発達の理解

第 10 回：子どもの音楽と環境

第 11 回：歌唱教材の選択と演習

第 12 回：グループ活動の意義及び事例研究

第 13 回：子どもを対象とする歌唱作品を用いたグループ活動(音楽劇)

- ・ストーリー及び台本作り、歌唱作品の選択、効果音、照明、舞台美術ほか計画立案

第 14 回：グループ毎の実践(創意・工夫)

- ・台本の読み合わせ及び音合わせ。台詞及び演技や踊りを伴った歌唱実践

第 15 回：グループ作品発表

評価

歌唱試験（30%） 音楽鑑賞レポート（20%） グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】

小林美実編「音楽リズム」 中田喜直編「子どもの歌」 全音楽譜出版「コールユーブンゲン」

【参考書・参考資料等】ビデオ・CD等の歌唱作品

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許資格を得るために必要な表現系の一演習科目。急速な変化を遂げる現代社会にあって、心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。歌うことを通して潤いのある環境を整えるために、保育者としての的確な表現力や指導力など、保育現場の求めに対応すべく歌唱全般について学んでいく。

授業の概要

受講者の歌唱における到達度を考慮し、音楽的基礎知識及び能力を育成する。またグループ活動によって主体的かつ積極的に関わり作品を創作し、音楽のみならず責任感や信頼感、協調性、コミュニケーション力などを図っていく。

学修目標

- 1、音楽的諸感覚を育み、基礎能力を習得する
- 2、歌唱作品の理解を深め、自己の描くイメージや思いを適格に表す力を身につける
- 3、歌唱を通して意欲や態度を育て、音楽の楽しさを知り、子どもの豊かな遊びへと展開する。

内容

授業計画

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：歌唱の意義について

第 3 回：音楽の基礎知識と楽譜の理解

第 4 回：声の仕組み 呼吸器官・発声器官・共鳴器官

第 5 回：発声法と姿勢

第 6 回：ソルフェージュ 読譜力と各種音感の獲得

第 7 回：音楽リズム ボディーパーカッションによる音とリズムの獲得

第 8 回：子どもの歌唱作品と表現法

- ・作品の理解(歌詞・音楽組織及び音と言葉の関連性)
- ・歌唱の基礎的技術と表現法

第 9 回：子どもの音楽的発達の理解

第 10 回：子どもの音楽と環境

第 11 回：歌唱教材の選択と演習

第 12 回：グループ活動の意義及び事例研究

第 13 回：子どもを対象とする歌唱作品を用いたグループ活動(音楽劇)

- ・ストーリー及び台本作り、歌唱作品の選択、効果音、照明、舞台美術ほか計画立案

第 14 回：グループ毎の実践(創意・工夫)

- ・台本の読み合わせ及び音合わせ。台詞及び演技や踊りを伴った歌唱実践

第 15 回：グループ作品発表

評価

歌唱試験（30%） 音楽鑑賞レポート（20%） グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】

小林美実編「音楽リズム」 中田喜直編「子どもの歌」 全音楽譜出版「コールユーブンゲン」

【参考書・参考資料等】ビデオ・CD等の歌唱作品

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人、神谷 明美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は幼稚園教諭免許資格を得るために必要な表現系の一演習科目。急速な変化を遂げる現代社会にあって、心豊かに生活していくために音楽は重要な役割を果たしている。歌うことを通して潤いのある環境を整えるために、保育者としての的確な表現力や指導力など、保育現場の求めに対応すべく歌唱全般について学んでいく。

授業の概要

受講者の歌唱における到達度を考慮し、音楽的基礎知識及び能力を育成する。またグループ活動によって主体的かつ積極的に関わり作品を創作し、音楽のみならず責任感や信頼感、協調性、コミュニケーション力などを図っていく。

学修目標

- 1、音楽的諸感覚を育み、基礎能力を習得する
- 2、歌唱作品の理解を深め、自己の描くイメージや思いを適格に表す力を身につける
- 3、歌唱を通して意欲や態度を育て、音楽の楽しさを知り、子どもの豊かな遊びへと展開する。

内容

授業計画

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：歌唱の意義について

第 3 回：音楽の基礎知識と楽譜の理解

第 4 回：声の仕組み 呼吸器官・発声器官・共鳴器官

第 5 回：発声法と姿勢

第 6 回：ソルフェージュ 読譜力と各種音感の獲得

第 7 回：音楽リズム ボディーパーカッションによる音とリズムの獲得

第 8 回：子どもの歌唱作品と表現法

- ・作品の理解(歌詞・音楽組織及び音と言葉の関連性)

- ・歌唱の基礎的技術と表現法

第 9 回：子どもの音楽的発達の理解

第 10 回：子どもの音楽と環境

第 11 回：歌唱教材の選択と演習

第 12 回：グループ活動の意義及び事例研究

第 13 回：子どもを対象とする歌唱作品を用いたグループ活動(音楽劇)

- ・ストーリー及び台本作り、歌唱作品の選択、効果音、照明、舞台美術ほか計画立案

第 14 回：グループ毎の実践(創意・工夫)

- ・台本の読み合わせ及び音合わせ。台詞及び演技や踊りを伴った歌唱実践

第 15 回：グループ作品発表

評価

歌唱試験（30%） 音楽鑑賞レポート（20%） グループ活動への取り組み（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】

小林美実編「音楽リズム」 中田喜直編「子どもの歌」 全音楽譜出版「コールユーブンゲン」

【参考書・参考資料等】ビデオ・CD等の歌唱作品

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「歌唱法」で習得したものは極めて基礎的なもので、この応用編での演習は多岐に亘る。選択科目であるが、保育現場の音楽活動には欠かせない表現方法を学ぶ。

科目の概要

さまざまなグループ活動を通して歌う、話す、動く、作るなど音楽表現の具体的な方法を学ぶ。人前での自己表現の不得手を解消できる内容となっている。

学習目標

- 1、音楽的自己能力の開発と表現力の獲得
- 2、作品の理解を深め歌う楽しさを知る
- 3、グループ活動を通して相互協力と信頼関係を築き、人間形成の向上を図る

内容

- 1、オリエンテーション
- 2、発声と音感
- 3、教科書「歌の本」を使用し、表現方法とレパートリーの拡大
- 4、歌唱作品の詩と音楽の理解
- 5、手遊びの意義
- 6、手遊び作品の練習と発表
- 7、合奏の意義
- 8、手作り楽器の製作
- 9、手作楽器作品の練習と発表
- 10、合奏曲の編曲(楽譜作り)
- 11、音楽劇を創る・作品鑑賞
- 12、ストーリー・台本・選曲・演出ほか
- 13、音楽劇の発表
- 14、音楽劇フィードバック
- 15、まとめ

評価

発表(60%) 試験(40%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】加宮葵 『子どもが音楽を好きになるとき』 音楽之友社 376.157/K
畑中良輔 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈』 音楽之友社 911.66/N/1-2

科目名	歌唱法		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「歌唱法」で習得したものは極めて基礎的なもので、この応用編での演習は多岐に亘る。選択科目であるが、保育現場の音楽活動には欠かせない表現方法を学ぶ。

科目の概要

さまざまなグループ活動を通して歌う、話す、動く、作るなど音楽表現の具体的な方法を学ぶ。人前での自己表現の不得手を解消できる内容となっている。

学習目標

- 1、音楽的自己能力の開発と表現力の獲得
- 2、作品の理解を深め歌う楽しさを知る
- 3、グループ活動を通して相互協力と信頼関係を築き、人間形成の向上を図る

内容

- 1、オリエンテーション
- 2、発声と音感
- 3、教科書「歌の本」を使用し、表現方法とレパートリーの拡大
- 4、歌唱作品の詩と音楽の理解
- 5、手遊びの意義
- 6、手遊び作品の練習と発表
- 7、合奏の意義
- 8、手作り楽器の製作
- 9、手作楽器作品の練習と発表
- 10、合奏曲の編曲(楽譜作り)
- 11、音楽劇を創る・作品鑑賞
- 12、ストーリー・台本・選曲・演出ほか
- 13、音楽劇の発表
- 14、音楽劇フィードバック
- 15、まとめ

評価

発表(60%) 試験(40%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】加宮葵 『子どもが音楽を好きになるとき』 音楽之友社 376.157/K
畑中良輔 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈』 音楽之友社 911.66/N/1-2

科目名	造形基礎		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	造形基礎		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身近な自然物やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な造形あそびを通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、子どもの発達と造形表現に関する知識・技術を習得し、将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力を身につけてほしい。

内容

1	授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事などを知る。
2	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動1について学ぶ。
3	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動2について学ぶ。
4	色彩の基礎1について学ぶ。
5	色彩の基礎2 について学ぶ。
6	身近にある材料1を使った表現を学ぶ。
7	身近にある材料2を使った表現を学ぶ。
8	身近にある材料3を使った表現を学ぶ。
9	身近にある材料4を使った表現を学ぶ。
10	身近にある材料5を使った表現を学ぶ。
11	身近な材料1でつくって遊ぶモノづくりを学ぶ。
12	身近な材料2をつかって遊ぶモノづくりを学ぶ。
13	身近な材料3をつかって遊ぶモノづくりを学ぶ。
14	映像メディア表現の可能性や教材化などを学ぶ。
15	まとめ

評価

活動への取り組み、学習態度(30%)、課題、提出物、レポート(70%)により総合的に判断します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、紹介する。

推薦書

- ・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに
- ・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	造形基礎		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身近な自然物やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な造形あそびを通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、子どもの発達と造形表現に関する知識・技術を習得し、将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力を身につけてほしい。

内容

1	授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事などを知る。
2	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動1について学ぶ。
3	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動2について学ぶ。
4	色彩の基礎1について学ぶ。
5	色彩の基礎2 について学ぶ。
6	身近にある材料1を使った表現を学ぶ。
7	身近にある材料2を使った表現を学ぶ。
8	身近にある材料3を使った表現を学ぶ。
9	身近にある材料4を使った表現を学ぶ。
10	身近にある材料5を使った表現を学ぶ。
11	身近な材料1でつくって遊ぶモノづくりを学ぶ。
12	身近な材料2をつかって遊ぶモノづくりを学ぶ。
13	身近な材料3をつかって遊ぶモノづくりを学ぶ。
14	映像メディア表現の可能性や教材化などを学ぶ。
15	まとめ

評価

活動への取り組み、学習態度(30%)、課題、提出物、レポート(70%)により総合的に判断します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、紹介する。

推薦書

- ・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに
- ・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	造形基礎		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身近な自然物やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な造形あそびを通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、子どもの発達と造形表現に関する知識・技術を習得し、将来、保育者として必要な実践的な力を身につけることを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力を身につけてほしい。

内容

1	授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事などを知る。
2	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動1について学ぶ。
3	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動2について学ぶ。
4	色彩の基礎1について学ぶ。
5	色彩の基礎2 について学ぶ。
6	身近にある材料1を使った表現を学ぶ。
7	身近にある材料2を使った表現を学ぶ。
8	身近にある材料3を使った表現を学ぶ。
9	身近にある材料4を使った表現を学ぶ。
10	身近にある材料5を使った表現を学ぶ。
11	身近な材料1でつくって遊ぶモノづくりを学ぶ。
12	身近な材料2をつかって遊ぶモノづくりを学ぶ。
13	身近な材料3をつかって遊ぶモノづくりを学ぶ。
14	映像メディア表現の可能性や教材化などを学ぶ。
15	まとめ

評価

活動への取り組み、学習態度(30%)、課題、提出物、レポート(70%)により総合的に判断します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、紹介する。

推薦書

- ・東山明『絵画・製作・造形あそび指導百科』ひかりのくに
- ・阿部寿文・舟井賀世子『0・1・2歳児の造形あそび百科』ひかりのくに

・平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	身体表現基礎		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス(平服、筆記用具持参)
2	心身を解きほぐす...仲良くなろう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	〃 基本的な運動を発展させた遊び
6	〃 運動を構成する要因への理解
7	〃 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	〃 手遊びから全身の表現遊びへ
10	〃 ~のように動いてみよう
11	〃 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	〃 フォークダンスの理解
14	〃 大好きな歌から表現遊びへ
15	〃 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	身体表現基礎		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス(平服、筆記用具持参)
2	心身を解きほぐす...仲良くなるよう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	〃 基本的な運動を発展させた遊び
6	〃 運動を構成する要因への理解
7	〃 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	〃 手遊びから全身の表現遊びへ
10	〃 ~のように動いてみよう
11	〃 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	〃 フォークダンスの理解
14	〃 大好きな歌から表現遊びへ
15	〃 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	身体表現基礎		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス(平服、筆記用具持参)
2	心身を解きほぐす...仲良くなるよう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	〃 基本的な運動を発展させた遊び
6	〃 運動を構成する要因への理解
7	〃 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	〃 手遊びから全身の表現遊びへ
10	〃 ~のように動いてみよう
11	〃 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	〃 フォークダンスの理解
14	〃 大好きな歌から表現遊びへ
15	〃 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	身体表現基礎		
担当教員名	坪倉 紀代子、仁井田 千寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【授業の概要】

感性、身体、運動に関わる多様な体験をさせることにより、運動することの楽しさ、面白さ、運動が引き起こす心身の変化に敏感な運動への興味関心が旺盛な学生の育成を図る。その上で幼児期の心身の発達、運動機能の特性を考えながら保育における身体表現活動をどのように援助・発展させていけばよいかを考える。あわせて幼児期における身体表現活動に係る教材、及び保育時の環境構成、指導上の留意点等を考えていく。

【到達目標】

- ・自身の現時点での運動能力・体力を最大限に発揮すること
- ・周囲の仲間の様子をしっかりと観察すること
- ・運動を分析する力、発展・展開させていく力、援助する方法を身につける
- ・子どもの活動としてとらえるときの留意点を学ぶ

内容

1	ガイダンス(平服、筆記用具持参)
2	心身を解きほぐす...仲良くなるよう
3	自身の身体への認識を深める...身体部位
4	<基本的な運動から身体表現へ> 基本的な運動の理解
5	〃 基本的な運動を発展させた遊び
6	〃 運動を構成する要因への理解
7	〃 運動を発展・展開させていく方法
8	<身近な遊びから身体表現へ> 伝承遊び・集団遊び
9	〃 手遊びから全身の表現遊びへ
10	〃 ~のように動いてみよう
11	〃 身近材料から表現遊びへ
12	<保育者にふさわしい身体づくり> リズミカルに動く
13	〃 フォークダンスの理解
14	〃 大好きな歌から表現遊びへ
15	〃 親子の遊び

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験、レポート・毎時の記録で評価する。

平常点50%、実技試験40%、レポート10%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】

レイチェル・カーソン	『センス・オブ・ワンダー』	新潮社
石亀泰雄	『さあ 森のようちえんへ』	ぱるす出版
レオ・パスカーリア	『葉っぱのフレディ』	童話屋

科目名	子どもと運動		
担当教員名	杉原 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科幼児教育専攻の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計(安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮)
5	保育内容の吟味(子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画(週案・日案)/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度(20%)、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容(20%)、グループ活動による作成資料の提出(30%)、学期末のレポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科幼児教育専攻の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計(安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮)
5	保育内容の吟味(子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画(週案・日案)/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度(20%)、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容(20%)、グループ活動による作成資料の提出(30%)、学期末のレポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科幼児教育専攻の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計(安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮)
5	保育内容の吟味(子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画(週案・日案)/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度(20%)、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容(20%)、グループ活動による作成資料の提出(30%)、学期末のレポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科幼児教育専攻の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計(安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮)
5	保育内容の吟味(子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画(週案・日案)/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度(20%)、グループ活動への取組みの姿勢とプレゼンテーションの内容(20%)、グループ活動による作成資料の提出(30%)、学期末のレポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて遊ぶことは、乳幼児期の子どもが健康な生活を送る上での基盤であり、そのような子どもの心身の健康を支える保育者の役割や指導の実際について具体的に考察していくことをめざす。

授業に積極的に参加することを求める。

数回の小レポート、期末レポートを提出すること。

内容

1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷
3	心の安定と園生活	入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性
10	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること
11	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とその対応 / 設備の点検
12	安全管理と健康管理	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識
13	食生活と健康	子どもの食習慣 / アレルギーへの対応
14	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育
15	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）

評価

平常点（20点）、授業時の課題提出（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館

【参考書】

河邊貴子・柴崎正行・杉原隆 編 「保育内容 健康」 ミネルヴァ書房

榎沢良彦・入江礼子 編著 「保育内容 健康」 建帛社

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。

安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて遊ぶことは、乳幼児期の子どもが健康な生活を送る上での基盤であり、そのような子どもの心身の健康を支える保育者の役割や指導の実際について具体的に考察していくことをめざす。

授業に積極的に参加することを求める。

数回の小レポート、期末レポートを提出すること。

内容

1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷
3	心の安定と園生活	入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性
10	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること
11	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とその対応 / 設備の点検
12	安全管理と健康管理	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識
13	食生活と健康	子どもの食習慣 / アレルギーへの対応
14	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育
15	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）

評価

平常点（20点）、授業時の課題提出（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館

【参考文献】

河邊貴子・柴崎正行・杉原隆 編 「保育内容 健康」 ミネルヴァ書房

榎沢良彦・入江礼子 編著 「保育内容 健康」 建帛社

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されている領域のうち、心身の健康に関する領域「健康」について学ぶ。
 安心感・安定感をもち、こころとからだを十分に働かせて遊ぶことは、乳幼児期の子どもが健康な生活を送る上での基盤であり、そのような子どもの心身の健康を支える保育者の役割や指導の実際について具体的に考察していくことをめざす。
 授業に積極的に参加することを求める。
 数回の小レポート、期末レポートを提出すること。

内容

1	領域「健康」とは何か	健康の定義を探る
2	領域「健康」とは何か	領域「健康」の歴史的変遷
3	心の安定と園生活	入園期の子どもの不安 / 子どもにとっての保育者の存在とは
4	心の安定と園生活	不安定な子どもの思いに寄り添う保育者のあり方 / 家庭との連携
5	身体機能の発達と遊び	発達段階と運動能力の傾向 / 園におけるさまざまな動き
6	身体機能の発達と遊び	自然との触れ合い / 戸外での遊び
7	身体機能の発達と遊び	遊びの中の動きの多様性 / 保育者の援助
8	生活リズム・生活習慣	子どもの生活実態とその変容 / 身辺自立と生活習慣の発達
9	生活リズム・生活習慣	園における援助のあり方 / 家庭との連続性
10	生活の場としての幼稚園・保育所	子どもが自ら生活の場を整えること
11	安全管理と健康管理	園生活で起こる事故とその対応 / 設備の点検
12	安全管理と健康管理	安全と健康に対する指導 / 遊びの中で育む意識
13	食生活と健康	子どもの食習慣 / アレルギーへの対応
14	食生活と健康	食育とは / 食べることの楽しさ・食に対する関心を育む保育
15	食生活と健康	食育と健康をテーマとした指導計画の立案（グループワーク）

評価

平常点（20点）、授業時の課題提出（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館

【参考図書】

河邊貴子・柴崎正行・杉原隆 編 「保育内容 健康」 ミネルヴァ書房

榎沢良彦・入江礼子 編著 「保育内容 健康」 建帛社

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目である。保育における「環境」とは何か、子どもの発達や遊び、保育者の役割に関する基本的知識を身につけ、乳幼児期の環境の重要性を理解することを目的とする。

科目の概要

保育・幼児教育における基本を理解し、保育を「環境」という視点からとらえ、子ども一人ひとりが主体的に生活し関わっていけるような環境作りを考える。その際、保育者自身が周囲の環境に気付き、柔軟で開かれた視野と好奇心・探究心、問題意識を持つことの重要性について、そして子どもの発達過程と一人ひとりに対する理解に基づく適切な援助と指導の方法、保育者の役割について具体的に学ぶ。

学修目標

保育における環境として、自然環境のみならず、人・物・事象と子どもとの関係を理解する。授業内では様々な事例や視聴覚資料などの資料を用いて具体的・実践的に考えたり、グループワークや発表の機会を設けたりするなど、受講者が身近な問題として環境を捉える。

内容

- 第1回：概説：保育における「環境」とは
- 第2回：幼稚園教育要領・保育所保育指針における「環境」とその変遷
- 第3回：子どもの発達と環境：乳児期
- 第4回：子どもの発達と環境：幼児期、児童期
- 第5回：遊びと環境
- 第6回：具体的事物との関わり、人的環境としての保育者の役割
- 第7回：子どもと自然
- 第8回：生活環境における文字、数量、情報
- 第9回：園の行事と子どもの経験
- 第10回：保育者の環境構成
- 第11回：保育計画と記録、省察
- 第12回：子どもを取り巻く現代社会と環境
- 第13回：子ども・家庭と保育・幼児教育の場
- 第14回：世界の保育・幼児教育
- 第15回：総括

評価

授業時の課題提出やコメントペーパーによる平常点（30点）、授業時の課題提出（20点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『環境』 無藤隆・福元真由美編 萌文書林

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、幼稚園教諭一種免許や保育士資格の取得のための必修科目であり、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじについて学び、集団と個の力動的な関係を十分に把握することによって、子ども集団における人間関係の質を高め、人とかかわる力を伸ばすための保育者のかかわり方について演習形式で学ぶ科目である。

学修目標は次の3点である。

高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかかわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきかを理解する。 保育実践において、個人と集団の相互的な関係を実現するための保育者のかかわり方基本を理解する。 保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求する。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深めながら、自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析、グループ討議を導入し、日常生活での自己の人とかかわる力についての洞察が保育実践力の促進にもつながることをめざす。

今、なぜ人間関係か

現代社会と子ども

人とかかわる力を弱める要因

人間関係をとらえる視点

人間関係をとらえるための基本原理

自己の人間関係分析

発達における人間関係の意義

人間関係の発達

こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）

保育と人間関係

教育要領、保育所保育指針における「領域 人間関係」

社会、文化の影響と子どもの人間関係

個と集団との関係

グループ活動による事例研究

まとめ

評価

レポート（60％）、学習への参加状況（40％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「新版 人間関係論－かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、幼稚園教諭一種免許や保育士資格の取得のための必修科目であり、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじについて学び、集団と個の力動的な関係を十分に把握することによって、子ども集団における人間関係の質を高め、人とかかわる力を伸ばすための保育者のかかわり方について演習形式で学ぶ科目である。

学修目標は次の3点である。

高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかかわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきかを理解する。 保育実践において、個人と集団の相互的な関係を実現するための保育者のかかわり方の基本を理解する。 保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求する。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で子ども理解を深めながら、自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析によって自己の人とかかわる力についての洞察を深め、保育実践力の向上にもつなげることをめざす。

今、なぜ人間関係か

現代社会と子ども

人とかかわる力を弱める要因

人間関係をとらえる視点

人間関係をとらえるための基本原理

自己の人間関係分析

発達における人間関係の意義

人間関係の発達

こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）

保育と人間関係

教育要領、保育所保育指針における「領域 人間関係」

社会、文化の影響と子どもの人間関係

個と集団との関係

グループ活動による事例研究

まとめ

評価

レポート（60％）、学習への参加状況（40％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「新版 人間関係論－かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、幼稚園教諭一種免許や保育士資格の取得のための必修科目であり、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじについて学び、集団と個の力動的な関係を十分に把握することによって、子ども集団における人間関係の質を高め、人とかかわる力を伸ばすための保育者のかかわり方について演習形式で学ぶ科目である。

学修目標は次の3点である。

高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかかわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきかを理解する。 保育実践において、個人と集団の相互的な関係を実現するための保育者のかかわり方基本を理解する。 保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求する。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深めながら、自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析、グループ討議を導入し、日常生活での自己の人とかかわる力についての洞察が保育実践力の促進にもつながることをめざす。

今、なぜ人間関係か

現代社会と子ども

人とかかわる力を弱める要因

人間関係をとらえる視点

人間関係をとらえるための基本原理

自己の人間関係分析

発達における人間関係の意義

人間関係の発達

こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）

保育と人間関係

教育要領、保育所保育指針における「領域 人間関係」

社会、文化の影響と子どもの人間関係

個と集団との関係

グループ活動による事例研究

まとめ

評価

レポート（60％）、学習への参加状況（40％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「新版 人間関係論－かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、幼稚園教諭一種免許や保育士資格の取得のための必修科目であり、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

この教科では、乳幼児における人間関係の芽生えを育てるために必要な基盤的な環境と、その発達の道すじについて学び、集団と個の力動的な関係を十分に把握することによって、子ども集団における人間関係の質を高め、人とかかわる力を伸ばすための保育者のかかわり方について演習形式で学ぶ科目である。

学修目標は次の3点である。

高度な物質文明と、都市化、少子化が進む現代社会においては、乳幼児に豊かな人間関係体験や人間関係認識が育ち、人とかかわり合う力が伸びるような環境をどのように保障すべきかを理解する。 保育実践において、個人と集団の相互的な関係を実現するための保育者のかかわり方基本を理解する。 保育者は乳幼児集団において、個々の子どもたちへどのような配慮や具体的な援助を心がける必要があるかを探求する。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

多様な人間関係状況における子どもの心理と表現の意味、人間関係の展開などを丁寧に把握する活動の過程で、子ども理解を深めながら、自己の子ども時代への回顧法や現在の学生生活における対人関係分析、グループ討議を導入し、日常生活での自己の人とかかわる力についての洞察が保育実践力の促進にもつながることをめざす。

今、なぜ人間関係か

現代社会と子ども

人とかかわる力を弱める要因

人間関係をとらえる視点

人間関係をとらえるための基本原理

自己の人間関係分析

発達における人間関係の意義

人間関係の発達

こどもと人間関係（家庭、地域、集団、社会文化の中で育つ人間関係）

保育と人間関係

教育要領、保育所保育指針における「領域 人間関係」

社会、文化の影響と子どもの人間関係

個と集団との関係

グループ活動による事例研究

まとめ

評価

レポート（60％）、学習への参加状況（40％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

畠中徳子、赤井美智子他 「新版 人間関係論－かかわり合い、育ち合い」 不昧堂

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	- 2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイマジネーション 私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせの演習
10	保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	- 2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイマジネーション 私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせの演習
10	保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	- 2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイマジネーション 私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせの演習
10	保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	横井 絃子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期の言葉とコミュニケーションの発達の理解
2	子どもの詩の鑑賞 / 「子どもの言葉」の表現特性とその後ろにある心情の理解
3	十文字のキャンパスをキャンパスにphoto俳句を一句
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	- 1保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	- 2保育者の言葉と援助（保育ビデオを基にした学習）
8	絵本・物語とイマジネーション 私自身の絵本との出会いをふりかえる
9	文化財としての絵本と紙芝居 / 読み聞かせの演習
10	保育案の作成と教材研究
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	絵本作りと合評

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ奏法」を取得し、さらに学んだ技術を、実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。子どもにとってうたいやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようなものなのか、さらに伴奏で音楽表現を豊かにするにはどのようにしていくのかを勉強する。

編曲法をベースに自分でピアノの編曲を行い、身につけていく。

内容

音楽理論をしっかり理解する。

第1回～第3回で音楽理論および西洋音楽の大まかな理解を学ぶ

・ ・ ・ ・ ・ のカデンツとその応用曲編曲法を学ぶ

第4回・5回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第6回・7回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第8回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第9回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第10回・第11回で短調の応用曲の編曲を学ぶ

第12回でコード奏の説明をする

第13回でコード奏の編曲を学ぶ

第14回・15回で編曲演奏の総まとめをする。

各自の技術に合わせた無理のない伴奏編曲をする

個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターしていく

伴奏の難易度かわらずどのような伴奏でも弾くことができる

伴奏譜がなくても考えて伴奏ができる

自在に楽譜を書くことができる

子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容でクラスの進度を見ながら進めていく。

評価

ペーパーテスト、ノート提出、授業への取り組みの三点で決定する。

ペーパーは持ち込み不可。15回目、90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】	最新 学生の音楽通論	供田武嘉津	音楽の友社	¥980	税込
【参考図書】	「ポケットいっぱいのうた」	鈴木恵津子著	教育芸術社	¥2100	

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ奏法」を取得し、さらに学んだ技術を、実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。子どもにとってうたいやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようなものなのか、さらに伴奏で音楽表現を豊かにするにはどのようにしていくのかを勉強する。

編曲法をベースに自分でピアノの編曲を行い、身につけていく。

内容

音楽理論をしっかり理解する。

第1回～第3回で音楽理論および西洋音楽の大まかな理解を学ぶ

・ ・ ・ ・ ・ のカデンツとその応用曲編曲法を学ぶ

第4回・5回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第6回・7回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第8回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第9回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第10回・第11回で短調の応用曲の編曲を学ぶ

第12回でコード奏の説明をする

第13回でコード奏の編曲を学ぶ

第14回・15回で編曲演奏の総まとめをする。

各自の技術に合わせた無理のない伴奏編曲をする

個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターしていく

伴奏の難易度かわらずどのような伴奏でも弾くことができる

伴奏譜がなくても考えて伴奏ができる

自在に楽譜を書くことができる

子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容でクラスの進度を見ながら進めていく。

評価

ペーパーテスト、ノート提出、授業への取り組みの三点で決定する。

ペーパーは持ち込み不可。15回目、90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】	最新 学生の音楽通論	供田武嘉津	音楽の友社	¥980	税込
【参考図書】	「ポケットいっぱい <u>の</u> うた」	鈴木恵津子著	教育芸術社	¥2100	

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ奏法」を取得し、さらに学んだ技術を、実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。子どもにとってうたいやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようなものなのか、さらに伴奏で音楽表現を豊かにするにはどのようにしていくのかを勉強する。

編曲法をベースに自分でピアノの編曲を行い、身につけていく。

内容

音楽理論をしっかり理解する。

第1回～第3回で音楽理論および西洋音楽の大まかな理解を学ぶ

・ ・ ・ ・ ・ のカデンツとその応用曲編曲法を学ぶ

第4回・5回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第6回・7回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第8回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第9回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第10回・第11回で短調の応用曲の編曲を学ぶ

第12回でコード奏の説明をする

第13回でコード奏の編曲を学ぶ

第14回・15回で編曲演奏の総まとめをする。

各自の技術に合わせた無理のない伴奏編曲をする

個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターしていく

伴奏の難易度かわらずどのような伴奏でも弾くことができる

伴奏譜がなくても考えて伴奏ができる

自在に楽譜を書くことができる

子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容でクラスの進度を見ながら進めていく。

評価

ペーパーテスト、ノート提出、授業への取り組みの三点で決定する。

ペーパーは持ち込み不可。15回目、90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】	最新 学生の音楽通論	供田武嘉津	音楽の友社	¥980	税込
【参考図書】	「ポケットいっぱい <u>の</u> うた」	鈴木恵津子著	教育芸術社	¥2100	

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ピアノ奏法」を取得し、さらに学んだ技術を、実際の童謡や子どもの歌の伴奏に活用する技術を学ぶ。子どもにとってうたいやすい伴奏とはどのようなものなのか、保育者にとって弾きやすい伴奏とはどのようなものなのか、さらに伴奏で音楽表現を豊かにするにはどのようにしていくのかを勉強する。

編曲法をベースに自分でピアノの編曲を行い、身につけていく。

内容

音楽理論をしっかり理解する。

第1回～第3回で音楽理論および西洋音楽の大まかな理解を学ぶ

・ ・ ・ ・ ・ のカデンツとその応用曲編曲法を学ぶ

第4回・5回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第6回・7回で ・ ・ ・ のカデンツのマスターと応用曲の編曲を学ぶ

第8回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第9回で ・ ・ ・ の応用曲の編曲を学ぶ

第10回・第11回で短調の応用曲の編曲を学ぶ

第12回でコード奏の説明をする

第13回でコード奏の編曲を学ぶ

第14回・15回で編曲演奏の総まとめをする。

各自の技術に合わせた無理のない伴奏編曲をする

個性を生かした編曲を学ぶ

このような基礎学習から次の項目をマスターしていく

伴奏の難易度かわらずどのような伴奏でも弾くことができる

伴奏譜がなくても考えて伴奏ができる

自在に楽譜を書くことができる

子ども主体の音楽が展開できる

上記の内容でクラスの進度を見ながら進めていく。

評価

ペーパーテスト、ノート提出、授業への取り組みの三点で決定する。

ペーパーは持ち込み不可。15回目、90分で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】	最新 学生の音楽通論	供田武嘉津	音楽の友社	¥980	税込
【参考図書】	「ポケットいっぱいのおた」	鈴木恵津子著	教育芸術社	¥2100	

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

科目の概要

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

学修目標

自らの感覚で感じ、考え、行動することにより、人間として「表現」する意味やその重要性について再確認するとともに、子どもの成長や環境に呼応した環境構成が可能になる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
- 15.エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料

集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

平田智久著「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

科目の概要

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

学修目標

自らの感覚で感じ、考え、行動することにより、人間として「表現」する意味やその重要性について再確認するとともに、子どもの成長や環境に呼応した環境構成が可能になる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
- 15.エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料

集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

平田智久著「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

科目の概要

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

学修目標

自らの感覚で感じ、考え、行動することにより、人間として「表現」する意味やその重要性について再確認するとともに、子どもの成長や環境に呼応した環境構成が可能になる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
- 15.エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料

集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

平田智久著「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（造形表現）		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と、示している。また、保育所保育指針では第1章 総則、3保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と、示している。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。

科目の概要

子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

学修目標

自らの感覚で感じ、考え、行動することにより、人間として「表現」する意味やその重要性について再確認するとともに、子どもの成長や環境に呼応した環境構成が可能になる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.プロローグ・自然との出会い-1-
2. 自然との出会い-2-
3. 自然との出会い-3-
4. ものとの出会い-1-
5. ものとの出会い-2-
6. ものとの出会い-3-
7. ものとの出会い-4-
8. ものとの出会い-5-
9. ものとの出会い-6-
10. ひととの出会い-1-
11. ひととの出会い-2-
12. ひととの出会い-3-
13. 社会の事象と造形-1-
14. 社会の事象と造形-2-
- 15.エピローグ・社会の事象と造形-3-

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

演習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料

集とすること(60%)。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲を評価する(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

平田智久著「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・ 保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・ 幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・ “身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

内容

1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	<動きを引き出す言葉かけの要素>運動そのものを明確にしていく
7	” 擬音語・擬態語との関係
8	” イメージと結びつけて
9	” 変化を生みだす状況設定
10	” ストーリーを考える
11	<多様な題材からの身体表現と指導法>紙飛行機
12	” 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的、面白い動詞を起点に
14	身近材料(小箱)を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実 『五感力を育てる』 中公新書

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版

山本直英、片山健 『からだっていいな』 童心社

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・ 保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・ 幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・ “身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

内容

1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	<動きを引き出す言葉かけの要素>運動そのものを明確にしていく
7	” 擬音語・擬態語との関係
8	” イメージと結びつけて
9	” 変化を生みだす状況設定
10	” ストーリーを考える
11	<多様な題材からの身体表現と指導法>紙飛行機
12	” 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的、面白い動詞を起点に
14	身近材料(小箱)を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実 『五感力を育てる』 中公新書

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版

山本直英、片山健 『からだっていいな』 童心社

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・ 保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・ 幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・ “身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

内容

1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	<動きを引き出す言葉かけの要素>運動そのものを明確にしていく
7	” 擬音語・擬態語との関係
8	” イメージと結びつけて
9	” 変化を生みだす状況設定
10	” ストーリーを考える
11	<多様な題材からの身体表現と指導法>紙飛行機
12	” 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的、面白い動詞を起点に
14	身近材料(小箱)を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実 『五感力を育てる』 中公新書

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版

山本直英、片山健 『からだっていいな』 童心社

科目名	国語概説		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園教諭一種を取得するための選択科目(選択必修)である。

幼稚園教育における「ことば」領域と小学校教育における「国語科」の位置づけを知る。

コミュニケーションのための言語教育にとどまらず、思考力や判断力、表現力をつけることの意味について理解し実践する力をつける。

- ・幼稚園と小学校におけることばの学びについて考えることができる。
- ・ことばの学びの諸相について知る。
- ・実際に子どもにどのように与えるのか考えることができる。

内容

1	幼稚園「ことば」と小学校「国語科」
2	国語科教育の変遷
3	国語科教育の現在
4	「話すこと・聞くこと」の学習
5	「伝え合う力」
6	「読む力」 物語文
7	「読む力」 詩、古典
8	「読む力」 説明的文章
9	「書く力」 物語や随筆
10	「書く力」 説明文
11	言語事項とは
12	言語事項の指導
13	年間指導計画を概括する
14	指導案
15	まとめ

評価

講義ごとにミニレポート(5割)、最終レポート(5割)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

幼稚園教育要領、小学校学習指導要領解説、総則編、国語編(文部科学省)

科目名	算数概説		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児期から形成される数、量、図形概念の獲得過程を考察していく。

小学校就学前後の幼児・児童の数学的概念の獲得と、小学校算数科の内容と関連づける。算数は低学年から高学年の学年進行にしたがって段階的に高度になる。指導の系統を考察し、小学校入学前の幼児期の遊びや生活を通した数や量の形の内容獲得を知る。算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

幼児期から形成される数学的な概念を、小学校算数科の内容と関連づけ、さらに問題解決学習を体感する。

内容

1	ガイダンス、小学校における算数科の役割と幼児教育
2	学習指導要領における算数、数感覚、個数を数えること、1対1対応
3	幼児の数感覚、十進位取り記数法
4	同じ数ずつの集まり、数の相対的な大きさ
5	どちらが多い、すごろく遊び、ものと数詞の対応、数の表し方
6	幼稚園での遊びの中での数、数概念、数直線
7	数の大小、順序と系列あわせていくつ、ピング・ゲーム
8	幼稚園で数に関わること、加法・減法の意味、加法・減法の計算
9	数の増減、数当てゲーム、整数の性質、問題解決的な学習
10	仲間集めと分類、くらべてみよう
11	身近な量の大きさ
12	比べ方と量の保存、量の測定
13	幼児の図形と空間の感覚、形作り、型押し、影遊び、模様作り
14	幼児児童の数量感覚、変わり方のパターン
15	振り返りとまとめ

評価

小テストや提出物(80%)、試験(20%)で評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著(東洋館出版社)

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、理論編(明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、1-3年実践編(明治図書)

算数科コース別指導による確かな学び、4-6年実践編(明治図書)

科目名	生活概説		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

小学校低学年教科の生活科がどのような学習であるかの概要を知り、ねらいや内容を具体的な実習や活動場面に触れることでより詳しく理解し、指導のポイントを身につける。また、仲間と協働してさまざまな体験を通し、これからの生活科のあり方を模索して、教員としての指導力や資質の向上を高めることをねらう。

内容

- 1 授業についての説明、
 - 生活概説についてのガイダンス、準備や連絡の説明
 - 2、 幼児や低学年児童にとっての遊びや学校生活の意義
 - 保育の中の子どもや保育者の役割
 - 幼小連携とは何か
 - 3、 小学校入門期の指導
 - 学校生活と入門期の学習
 - 生活科についての概要(小学校学習指導要領、幼稚園指導要綱のねらいと内容)
 - 4、 生活科とはどのような教科か
 - 自然にかかわるねらいと内容
 - 大学キャンパス内の自然見つけと落ち葉の造形製作
 - 製作にかかわるねらいと内容
 - 実際に廃品等を集めそれらを利用して製作する
 - 地域社会にかかわるねらいと内容
 - 自分の住んでいる町をマップで表現する
 - 作成したマップを元に自分の町自慢をする(発表)
 - 5、 実際の指導はどのようにするか
 - 年間カリキュラム編成の意義と概要
 - 学習指導案の事例から指導案の意義を学ぶ
 - 学んだことを振り返り(評価に触れる)まとめをする
- 2 回ほど折り紙を活用したカード作りや俳句づくりを入れる

評価

毎回の授業の課題が75%、作品25%程度で総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特になし その都度作成資料配付

【参考図書】 学習指導要領・生活科の指導書 「新しい生活」小学校生活科教科書 東京書籍

生活科事典 東京書籍 他の参考図書は授業内で提示する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物(30点)とレポート(70点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物(30点)とレポート(70点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子どもと自然		
担当教員名	二宮 穰		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、おもに幼児と自然とのかかわりの援助について学ぶ。他の保育内容科目との関連が深い。

科目の概要

動植物をはじめ、季節の自然事象を活用しながら、保育者自身が自然に親しみ、理解とかかわりを深めるとともに、子どもにとって自然とのかかわりがいかに重要かを理解し、適切な援助の方法を考えていく。

学修目標

1. 動植物をはじめとする身近な自然事象に気づき、かかわりをもつことができる。
2. そうした自然事象の性質や特徴を理解し、かかわりを深めることができる。
3. 自分の体験を活かしながら、子どもと自然とのかかわりを援助する方法を具体的に考えることができる。

内容

1	子どもにとっての自然
2	身近な自然体験 小動物とのかかわり
3	身近な自然体験 植物とのかかわり
4	身近な自然体験 自然事象とのかかわり
5	身近な自然体験 季節の自然への気づきと活用
6	動物とのかかわり ねらい, 動物とは何か?
7	動物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
8	動物とのかかわり 実践事例に学ぶ
9	植物とのかかわり ねらい, 植物とは何か?
10	植物とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
11	植物とのかかわり 実践事例に学ぶ
12	自然事象とのかかわり ねらい, 自然事象とは何か?
13	自然事象とのかかわり 保育のなかでどのようにかわるか
14	自然事象とのかかわり 実践事例に学ぶ
15	まとめ

評価

授業の3分の2以上出席した学生を評価の対象とする。平常の提出物(30点)とレポート(70点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。適宜プリントを配布。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	小泉 かおる		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は1年次履修「子ども家庭福祉」での学びを基に、子どもと子どもを育てる家庭に関する福祉関連施策・及び実際の支援について理解を深める科目です。「社会福祉」「社会福祉援助技術」「養護原理」「養護内容」とも関連性があります。

変化する子育て環境に対する理解を踏まえ、子どもの権利条約、保育制度、児童養護、子育て支援、少年非行、障害児福祉、国際社会における子どもの福祉など各テーマに関する新たな動向と課題について学びます。後半では受講者が選んだテーマについてレポートを作成し、その内容について発表及び討議を行うことで各テーマに対する理解と考察を深めます。受講者各自の主体的な学びを期待しています。

目標は次の3点です

- 1 子どもと子どもを育てる家庭に対する福祉関連施策・実際の支援について理解する
- 2 子ども家庭福祉に関する新たな動向や課題について理解する
- 3 自ら選んだテーマを口頭発表し、互いの発表内容について討議し理解と考察を深める

内容

- 1 子ども家庭福祉の課題ー変化する子育て環境
- 2 子ども家庭福祉の理念ー子どもの権利条約と子どもの人権
- 3 子ども家庭福祉における保育制度ー認定子ども園
- 4 児童養護問題ー子ども虐待事例から
- 5 子育て支援ー対策の充実と課題
- 6 少年非行ー刑事司法と児童福祉
- 7 障害児福祉ー現状と新たな動向
- 8 世界の子どもたち ー国際社会における課題
- 9 世界の子どもたち
- 10 発表及び討議
- 11 発表及び討議
- 12 発表及び討議
- 13 子ども家庭福祉にかかわる専門職
- 14 子ども家庭福祉の課題
- 15 まとめ

評価

各回ごとの課題作成(10%)口頭発表(20%)レポート(30%)試験(40%)三分の二以上出席することで評価を行います。合格点にみたなかった場合は再試験します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「児童福祉を学ぶー子どもと家庭に対する支援」松本園子／堀口美智子／森和子 著 ななみ書房

【参考文献】講義内で適宜紹介します。

科目名	社会福祉		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	社会福祉援助技術		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の本質・目的の理解に関する科目」として位置付けられています。保育の場において展開される社会福祉援助技術について理解していくことを目指します。そのために「社会福祉援助技術の概要」「社会福祉援助技術の方法と専門的技術」「社会福祉援助技術の具体的展開」「保育における社会福祉援助技術の応用と事例」について理解していきます。また保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、グループディスカッションやグループワークを重ねながら受講生相互に学びを深めていくことを求めます。そのため、グループディスカッションやグループワークに受講生が積極的に参加することが必要となります。

内容

- 1.社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)とは(1回)
- 2.保育者と社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)について
 - 直接援助技術と間接援助技術 - (1回)
- 3.個別援助技術 (4回)
 - 意義
 - 原則と展開
 - 面接、記録、評価
 - 保育における実践例に学ぶ
- 4.集団援助技術(4回)
 - 意義
 - 原則と展開
 - 保育における実践例に学ぶ
- 5.地域援助技術(3回)
 - 意義と可能性
 - 原則と展開
 - 保育における実践例に学ぶ
 - プログラムを計画してみよう
- 6.関連援助技術(1回)
- 7.まとめ(1回)

評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度(30点)、授業内でのレポート(20点)、最終課題(50点)により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト: 桐野由美子編著「保育者のための社会福祉援助技術」樹村房

科目名	社会福祉援助技術		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の本質・目的の理解に関する科目」として位置付けられています。保育の場において展開される社会福祉援助技術について理解していくことを目指します。そのために「社会福祉援助技術の概要」「社会福祉援助技術の方法と専門的技術」「社会福祉援助技術の具体的展開」「保育における社会福祉援助技術の応用と事例」について理解していきます。また保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、グループディスカッションやグループワークを重ねながら受講生相互に学びを深めていくことを求めます。そのため、グループディスカッションやグループワークに受講生が積極的に参加することが必要となります。

内容

- 1.社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)とは(1回)
- 2.保育者と社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)について
 - 直接援助技術と間接援助技術 - (1回)
- 3.個別援助技術 (4回)
 - 意義
 - 原則と展開
 - 面接、記録、評価
 - 保育における実践例に学ぶ
- 4.集団援助技術(4回)
 - 意義
 - 原則と展開
 - 保育における実践例に学ぶ
- 5.地域援助技術(3回)
 - 意義と可能性
 - 原則と展開
 - 保育における実践例に学ぶ
 - プログラムを計画してみよう
- 6.関連援助技術(1回)
- 7.まとめ(1回)

評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度(30点)、授業内でのレポート(20点)、最終課題(50点)により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト: 桐野由美子編著「保育者のための社会福祉援助技術」樹村房

科目名	社会福祉援助技術		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は保育士養成課程教育カリキュラムにおける「保育の本質・目的の理解に関する科目」として位置付けられています。保育の場において展開される社会福祉援助技術について理解していくことを目指します。そのために「社会福祉援助技術の概要」「社会福祉援助技術の方法と専門的技術」「社会福祉援助技術の具体的展開」「保育における社会福祉援助技術の応用と事例」について理解していきます。また保育士としてどのようなソーシャルワークを実践していくことが必要かについて考え、グループディスカッションやグループワークを重ねながら受講生相互に学びを深めていくことを求めます。そのため、グループディスカッションやグループワークに受講生が積極的に参加することが必要となります。

内容

- 1.社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)とは(1回)
- 2.保育者と社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)について
- 直接援助技術と間接援助技術 - (1回)
- 3.個別援助技術 (4回)
 - 意義
 - 原則と展開
 - 面接、記録、評価
 - 保育における実践例に学ぶ
- 4.集団援助技術(4回)
 - 意義
 - 原則と展開
 - 保育における実践例に学ぶ
- 5.地域援助技術(3回)
 - 意義と可能性
 - 原則と展開
 - 保育における実践例に学ぶ
 - プログラムを計画してみよう
- 6.関連援助技術(1回)
- 7.まとめ(1回)

評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度(30点)、授業内でのレポート(20点)、最終課題(50点)により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト：桐野由美子編著「保育者のための社会福祉援助技術」樹村房

科目名	養護原理		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目である。また、3・4年次の施設実習(保育所以外)とのつながりも念頭において、どの施設に配属されても対応できるように基本的知識と専門的視点を身につける。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会福祉援助技術」、3年次履修「養護内容」とも関連性がある。

科目の概要

これまでの児童養護の歴史を振り返ることで子どもが人として育つ過程での社会の役割について整理し、現代社会における児童養護の意義について理解する。また、児童養護施設の子どもの生活と施設保育者の仕事や役割について理解する。

学修目標

1. 児童養護はなぜ生じるのか、施設で生活するとは何かについて考える
2. 児童養護施設の役割と援助の実際を理解する
3. 児童養護の原理と原則を理解する
4. 施設保育者の専門性と他職種連携を理解する

内容

1	養護問題とは何か
2	子どもの権利と子ども観の変遷
3	児童養護の成り立ち 古代から近世まで
4	児童養護の成り立ち 最近の動向と関係法令の成立
5	ホスピタリズム、ノーマライゼーションと児童養護の理論
6	家庭・地域の子育てと児童養護の関連
7	児童養護の原理・原則
8	児童養護の体系と種類 養育環境に問題のある子ども施設養護の実際
9	児童養護の体系と種類 障害のある子どものための施設養護の実際
10	児童養護の体系と種類 家庭的養護(里親制度など)
11	児童相談所の機能と役割
12	虐待を受けた子どもへの援助の実際
13	施設の設備と運営、第三者評価
14	施設保育者の専門性とチームワーク
15	まとめ

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末テスト(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 昇地勝人 他 『養護原理』 ナカニシヤ書房

科目名	養護原理		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目である。また、3・4年次の施設実習(保育所以外)とのつながりも念頭において、どの施設に配属されても対応できるように基本的知識と専門的視点を身につける。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会福祉援助技術」、3年次履修「養護内容」とも関連性がある。

科目の概要

これまでの児童養護の歴史を振り返ることで子どもが人として育つ過程での社会の役割について整理し、現代社会における児童養護の意義について理解する。また、児童養護施設の子どもの生活と施設保育者の仕事や役割について理解する。

学修目標

1. 児童養護はなぜ生じるのか、施設で生活するとは何かについて考える
2. 児童養護施設の役割と援助の実際を理解する
3. 児童養護の原理と原則を理解する
4. 施設保育者の専門性と他職種連携を理解する

内容

1	養護問題とは何か
2	子どもの権利と子ども観の変遷
3	児童養護の成り立ち 古代から近世まで
4	児童養護の成り立ち 最近の動向と関係法令の成立
5	ホスピタリズム、ノーマライゼーションと児童養護の理論
6	家庭・地域の子育てと児童養護の関連
7	児童養護の原理・原則
8	児童養護の体系と種類 養育環境に問題のある子ども施設養護の実際
9	児童養護の体系と種類 障害のある子どものための施設養護の実際
10	児童養護の体系と種類 家庭的養護(里親制度など)
11	児童相談所の機能と役割
12	虐待を受けた子どもへの援助の実際
13	施設の設備と運営、第三者評価
14	施設保育者の専門性とチームワーク
15	まとめ

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末テスト(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 昇地勝人 他 『養護原理』 ナカニシヤ書房

科目名	養護内容		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次後期開講の養護原理で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会福祉援助技術」、「養護原理」や3・4年次の施設実習(保育所以外)とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や危機介入について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションおよびグループワークも取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 児童養護施設と地域のつながりや施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	親が親として育つ過程と親権
3	自己実現、自立への支援・援助
4	児童養護の決定に関する基本的しくみ
5	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設を中心に
6	保育者の基本的な養護援助・支援 障害児系施設を中心に
7	保育者の基本的な養護援助・支援 療育を中心に
8	施設養護での心理的ケア
9	虐待を受けた子どもへの支援 なぜ虐待は起こるのか
10	虐待を受けた子どもへの支援 世代間伝達
11	施設内虐待と予防
12	施設と地域のつながり、家族再統合への取り組み
13	施設職員のメンタルヘルス
14	自立支援計画書の作成・方法
15	まとめ

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末レポート(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 小木曾 宏 他 『よくわかる養護内容・自立支援』 ミネルヴァ書房

[参考図書] 市川和彦 『虐待のない支援 知的障害の理解と関わり合い』 誠信書房

科目名	養護内容		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次後期開講の養護原理で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会福祉援助技術」、「養護原理」や3・4年次の施設実習(保育所以外)とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や危機介入について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションおよびグループワークも取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 児童養護施設と地域のつながりや施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	親が親として育つ過程と親権
3	自己実現、自立への支援・援助
4	児童養護の決定に関する基本的しくみ
5	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設を中心に
6	保育者の基本的な養護援助・支援 障害児系施設を中心に
7	保育者の基本的な養護援助・支援 療育を中心に
8	施設養護での心理的ケア
9	虐待を受けた子どもへの支援 なぜ虐待は起こるのか
10	虐待を受けた子どもへの支援 世代間伝達
11	施設内虐待と予防
12	施設と地域のつながり、家族再統合への取り組み
13	施設職員のメンタルヘルス
14	自立支援計画書の作成・方法
15	まとめ

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末レポート(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 小木曾 宏 他 『よくわかる養護内容・自立支援』 ミネルヴァ書房

[参考図書] 市川和彦 『虐待のない支援 知的障害の理解と関わり合い』 誠信書房

科目名	養護内容		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次後期開講の養護原理で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会福祉援助技術」、「養護原理」や3・4年次の施設実習(保育所以外)とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や危機介入について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションおよびグループワークも取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 児童養護施設と地域のつながりや施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	親が親として育つ過程と親権
3	自己実現、自立への支援・援助
4	児童養護の決定に関する基本的しくみ
5	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設を中心に
6	保育者の基本的な養護援助・支援 障害児系施設を中心に
7	保育者の基本的な養護援助・支援 療育を中心に
8	施設養護での心理的ケア
9	虐待を受けた子どもへの支援 なぜ虐待は起こるのか
10	虐待を受けた子どもへの支援 世代間伝達
11	施設内虐待と予防
12	施設と地域のつながり、家族再統合への取り組み
13	施設職員のメンタルヘルス
14	自立支援計画書の作成・方法
15	まとめ

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末レポート(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 小木曾 宏 他 『よくわかる養護内容・自立支援』 ミネルヴァ書房

[参考図書] 市川和彦 『虐待のない支援 知的障害の理解と関わり合い』 誠信書房

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の多様化の中で、これからの保育者は健康な状態の子どもだけでなく、具合が悪くなった子どもやアレルギー疾患、感染症などにも対応せねばならない。本科目では子どもに多い様々な疾患や症状について学習し、将来様々なことに対応できる保育者を目指す。予防接種についての新しい知識は保護者との共通認識として重要となる。児童保健 を踏まえ、 ではさらに多くの実際的な事項を小児科専門医師の立場から視聴覚をとうして分かりやすく伝えたい。

内容

- 1,子どもの近視、目の病気
- 2,皮膚の病気1
- 3,皮膚の病気2 対応
- 4,子どもの発達に応じた事故防止 SIDS
- 5,耳鼻科疾患 中耳炎 へんとう肥大
- 6,歯科保健
- 7,最近の予防接種
- 8,ウイルス感染症1
- 9,ウイルス感染症2
- 10,受動喫煙による子どもの病気
- 11,喘息、アレルギー疾患
- 12,虐待の発見 児童憲章
- 13,多胎児の育児
- 14,授業の復習
- 15,まとめ

評価

定期試験70% レポート20% 授業参加度10% によって評価し60点以上を合格とする。

合格点に満たない場合「再試験」を実施する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書]日本保育園保健協議会編[保育保健の基礎知識]日本小児医事出版社

[推薦書]日本外来小児科学会編[お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド]医師薬出版株式会社

科目名	児童保健学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の多様化の中で、これからの保育者は健康な状態の子どもだけでなく、具合が悪くなった子どもやアレルギー疾患、感染症などにも対応せねばならない。本科目では子どもに多い様々な疾患や症状について学習し、将来様々なことに対応できる保育者を目指す。予防接種についての新しい知識は保護者との共通認識として重要となる。児童保健 を踏まえ、 ではさらに多くの実際的な事項を小児科専門医師の立場から視聴覚をとうして分かりやすく伝えたい。

内容

- 1,子どもの近視、目の病気
- 2,皮膚の病気1
- 3,皮膚の病気2 対応
- 4,子どもの発達に応じた事故防止 SIDS
- 5,耳鼻科疾患 中耳炎 へんとう肥大
- 6,歯科保健
- 7,最近の予防接種
- 8,ウイルス感染症1
- 9,ウイルス感染症2
- 10,受動喫煙による子どもの病気
- 11,喘息、アレルギー疾患
- 12,虐待の発見 児童憲章
- 13,多胎児の育児
- 14,授業の復習
- 15,まとめ

評価

定期試験70% レポート20% 授業参加度10% によって評価し60点以上を合格とする。

合格点に満たない場合「再試験」を実施する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書]日本保育園保健協議会編[保育保健の基礎知識]日本小児医事出版社

[推薦書]日本外来小児科学会編[お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド]医師薬出版株式会社

科目名	児童保健学実習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では日常的に子どもの健康観察を行うことは必要となる。児童保健学実習では児童保健学 の学習を踏まえ、実習として各自が体験する学習をめざす。グループ分けをしてさらに2-3人で組んで実習することもある。心音、呼吸音の計測、視力・聴覚検査などで子どもへの理解を深め、人形を使った身体計測、沐浴実習などでは日頃保育の現場や家庭で実施していることを体験する。事故予防では家庭や室内の危険の見極めと対応を学び、感染予防の基礎である手洗いについては特に実習が欠かせない。実習をまじめに取り組むことで後期の児童保健学 が理解しやすい。実習への取り組みかたは評価の対象となる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な実習を進めたい。

内容

- 1,子どもの身体計測
- 2,体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3,家庭で行う聴力検査
- 4,家庭で行う視力検査
- 5,子どもの事故防止
- 6,手洗い実習 手洗い歌
- 7,ノロウィルス対応
- 8,調乳 哺乳 排気
- 9,乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10,沐浴実習
- 11,夏の保育の注意 調査
- 12,夏の保育の調査レポート
- 13,デンバー式発達表作成
- 14,外傷、骨折、けいれん等の対応
- 15,まとめ 解説

評価

実演テスト40% 実習参加度20% レポート40%によって評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書]日本保育保健協議会編 「保育保健の基礎知識」日本小児医事出版社

[推薦書]榊原洋一監修 「小児保健実習ノート」診断と治療社

科目名	児童保健学実習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では日常的に子どもの健康観察を行うことは必要となる。児童保健学実習では児童保健学 の学習を踏まえ、実習として各自が体験する学習をめざす。グループ分けをしてさらに2-3人で組んで実習することもある。心音、呼吸音の計測、視力・聴覚検査などで子どもへの理解を深め、人形を使った身体計測、沐浴実習などでは日頃保育の現場や家庭で実施していることを体験する。事故予防では家庭や室内の危険の見極めと対応を学び、感染予防の基礎である手洗いについては特に実習が欠かせない。実習をまじめに取り組むことで後期の児童保健学 が理解しやすい。実習への取り組みかたは評価の対象となる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な実習を進めたい。

内容

- 1,子どもの身体計測
- 2,体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3,家庭で行う聴力検査
- 4,家庭で行う視力検査
- 5,子どもの事故防止
- 6,手洗い実習 手洗い歌
- 7,ノロウィルス対応
- 8,調乳 哺乳 排気
- 9,乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10,沐浴実習
- 11,夏の保育の注意 調査
- 12,夏の保育の調査レポート
- 13,デンバー式発達表作成
- 14,外傷、骨折、けいれん等の対応
- 15,まとめ 解説

評価

実演テスト40% 実習参加度20% レポート40%によって評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書]日本保育保健協議会編 「保育保健の基礎知識」日本小児医事出版社

[推薦書]榊原洋一監修 「小児保健実習ノート」診断と治療社

科目名	児童保健学実習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では日常的に子どもの健康観察を行うことは必要となる。児童保健学実習では児童保健学 の学習を踏まえ、実習として各自が体験する学習をめざす。グループ分けをしてさらに2-3人で組んで実習することもある。心音、呼吸音の計測、視力・聴覚検査などで子どもへの理解を深め、人形を使った身体計測、沐浴実習などでは日頃保育の現場や家庭で実施していることを体験する。事故予防では家庭や室内の危険の見極めと対応を学び、感染予防の基礎である手洗いについては特に実習が欠かせない。実習をまじめに取り組むことで後期の児童保健学 が理解しやすい。実習への取り組みかたは評価の対象となる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な実習を進めたい。

内容

- 1,子どもの身体計測
- 2,体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3,家庭で行う聴力検査
- 4,家庭で行う視力検査
- 5,子どもの事故防止
- 6,手洗い実習 手洗い歌
- 7,ノロウィルス対応
- 8,調乳 哺乳 排気
- 9,乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10,沐浴実習
- 11,夏の保育の注意 調査
- 12,夏の保育の調査レポート
- 13,デンバー式発達表作成
- 14,外傷、骨折、けいれん等の対応
- 15,まとめ 解説

評価

実演テスト40% 実習参加度20% レポート40%によって評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- [教科書] 日本保育保健協議会編 「保育保健の基礎知識」日本小児医事出版社
 [推薦書] 榊原洋一監修 「小児保健実習ノート」診断と治療社

科目名	児童保健学実習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では日常的に子どもの健康観察を行うことは必要となる。児童保健学実習では児童保健学 の学習を踏まえ、実習として各自が体験する学習をめざす。グループ分けをしてさらに2-3人で組んで実習することもある。心音、呼吸音の計測、視力・聴覚検査などで子どもへの理解を深め、人形を使った身体計測、沐浴実習などでは日頃保育の現場や家庭で実施していることを体験する。事故予防では家庭や室内の危険の見極めと対応を学び、感染予防の基礎である手洗いについては特に実習が欠かせない。実習をまじめに取り組むことで後期の児童保健学 が理解しやすい。実習への取り組みかたは評価の対象となる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な実習を進めたい。

内容

- 1,子どもの身体計測
- 2,体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3,家庭で行う聴力検査
- 4,家庭で行う視力検査
- 5,子どもの事故防止
- 6,手洗い実習 手洗い歌
- 7,ノロウィルス対応
- 8,調乳 哺乳 排気
- 9,乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10,沐浴実習
- 11,夏の保育の注意 調査
- 12,夏の保育の調査レポート
- 13,デンバー式発達表作成
- 14,外傷、骨折、けいれん等の対応
- 15,まとめ 解説

評価

実演テスト40% 実習参加度20% レポート40%によって評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- [教科書] 日本保育保健協議会編 「保育保健の基礎知識」日本小児医事出版社
 [推薦書] 榊原洋一監修 「小児保健実習ノート」診断と治療社

科目名	精神保健		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は幼児教育専攻専門科目の中の選択科目であり、保育士資格取得のための必修科目となっている。

精神保健は「人間の心の健康」について探求する学科であり、この分野は、精神医学、心理学、社会学等の多方面から、人間に光をあてた多面的、総合的アプローチが不可欠である。

高度に科学技術の発達した現代社会の中で、人々が直面している人間の心の問題や、それぞれの発達段階に特有な人格形成上の発達課題をクリアすることに伴う精神的な危機状況についての多面的な人間理解を深める科目である。

学修目標は、次の3点である。

乳幼児期にある子どもが心身両面において健康に生活できることが人格形成の基盤になることへの理解 乳幼児期から児童期にある子どもに特徴的な心理的問題の特徴と社会構造の変化との関係についての理解 関係的な状況把握の視点から、地域や保育者による子どもや家族への援助のあり方の基本原理と精神保健ネットワークによる実践についての理解

内容

一生の中で最も目ざましい発達を遂げる時期にある乳幼児は、極めて環境に規定されやすい存在である。このような人格の基盤を形成するきわめて重要な時期にある子どもの身心の健康の増進と、子どもと保護者との良好な関係づくりをどのように支援するかの基本を中心的に学ぶ。

精神保健とは

精神保健の歩み

現代社会における心の健康のとらえ方

精神保健の課題の広がり と精神保健ネットワークの重要性

子どもの生活と育ちにおける課題と保育者の役割

社会の変化と精神保健

家族構造の変化 と多様性の受容

現代社会における子育て状況と保護者の育児不安

メディアと子ども

子どもと家族関係

発達をつまづきへの援助

子どもの障害とその援助

地域に広がる精神保健ネットワーク

保育所、幼稚園、地域の子育て支援センターにおける子育て支援活動の実際と保育者の役割等

まとめ

評価

テスト(40%)、レポートの成績(30%)授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

共著 「精神保健 - 子どもと家族の援助のために-」 樹村房

科目名	精神保健		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は幼児教育専攻専門科目の中の選択科目であり、保育士資格取得のための必修科目となっている。

精神保健は「人間の心の健康」について探求する学科であり、この分野は、精神医学、心理学、社会学等の多方面から、人間に光をあてた多面的、総合的アプローチが不可欠である。

高度に科学技術の発達した現代社会の中で、人々が直面している人間の心の問題や、それぞれの発達段階に特有な人格形成上の発達課題をクリアすることに伴う精神的な危機状況についての多面的な人間理解を深める科目である。

学修目標は、次の3点である。

乳幼児期にある子どもが心身両面において健康に生活できることが人格形成の基盤になることへの理解 乳幼児期から児童期にある子どもに特徴的な心理的問題の特徴と社会構造の変化との関係についての理解 関係的な状況把握の視点から、地域や保育者による子どもや家族への援助のあり方の基本原理と精神保健ネットワークによる実践についての理解

内容

一生の中で最も目ざましい発達を遂げる時期にある乳幼児は、極めて環境に規定されやすい存在である。このような人格の基盤を形成するきわめて重要な時期にある子どもの身心の健康の増進と、子どもと保護者との良好な関係づくりをどのように支援するかの基本を中心的に学ぶ。

精神保健とは

精神保健の歩み

現代社会における心の健康のとらえ方

精神保健の課題の広がりと精神保健ネットワークの重要性

子どもの生活と育ちにおける課題と保育者の役割

社会の変化と精神保健

家族構造の変化 と多様性の受容

現代社会における子育て状況と保護者の育児不安

メディアと子ども

子どもと家族関係

発達につまずきへの援助

子どもの障害とその援助

地域に広がる精神保健ネットワーク

保育所、幼稚園、地域の子育て支援センターにおける子育て支援活動の実際と保育者の役割等

まとめ

評価

テスト(40%)、レポートの成績(30%)授業への参加態度(30%)を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

共著 「精神保健 - 子どもと家族の援助のために-」 樹村房

科目名	地域と福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代社会における福祉を理解するため、地域福祉の基本的考え方、またその背景を学ぶ。各地で展開されている住民の主体的な活動事例(ボランティア・NPO・コミュニティビジネス等)をとりあげ、多様な人々の多様な生活が展開する地域という総合的な空間の理解を深める。自らの生活の場として、居住地域を見る視点を得る。

内容

1	現代社会におけるコミュニティと福祉
2	地域福祉の理念とその展開
3	地域福祉の理論の発展
4	地域性の把握と生活問題
5	地域福祉の主体と多様な地域団体
6	住民参加と専門職の役割
7	事例検討 - 老人給食をめぐって
8	事例検討 - お互い様の介護から
9	事例検討 - 働く場を求めて
10	事例検討 - 育てあう関係を広げて
11	事例検討 - 安心して暮らす住まい
12	ソーシャルキャピタルの可能性
13	課題報告 - 自分の住む地域を考える
14	課題報告 - 自分のすむ地域を考える
15	課題講評と講義のまとめ

評価

受講態度(20点)、授業における報告・発表(20点)、期末レポート(60点)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書: 渋川智明『福祉NPO - 地域を支える市民起業』岩波新書 2001 369/S

広井良典『持続可能な福祉社会 - 「もう一つの日本」の構想』ちくま新書 2006 364/H

岩下清子・佐藤義夫・島田千穂『「小規模多機能」の意味論』雲母書房 2006 369.26/I

科目名	食と発達		
担当教員名	辻 ひろみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

食生活は健康な人々の生活の基礎であることを踏まえ、子どもの発育・発達および特別な配慮などに応じた適切な栄養や食生活とは何か学ぶとともに、保育における子どもの発達に合わせた食育支援、保護者支援に必要な食の知識を学ぶ。

内容

1	ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	ライフサイクルと子どもの食生活の現状
3	子どもの発達と栄養の基本的な知識
4	何をどのくらい食べたらよいか、日常的な献立構造について
5	乳児期の食生活(乳汁栄養)
6	乳児期の食生活(子どもの発育・発達の関係と離乳の実際)
7	幼児期の食生活(幼児期の心身の特徴と食事)
8	幼児期の食生活(幼児期の食生活上の問題と対応)
9	学齢期・思春期の食生活(心身の特徴と望ましい食生活および食の自立について)
10	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
11	特別な配慮が必要な子どもの食生活と対応
12	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
13	食育の基礎知識
14	食育支援の計画から評価の考え方と事例
15	まとめ

評価

レポート20点(20%) 課題発表10点(10%) 筆記試験(70%) 60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】堤ちはる著:子育て・子育てを支援する—小児栄養—, 萌文書林

【参考図書】内田園 他著:子どもの食と栄養, 学建書院

亀城和子 他著:「保育所の食事を通して食育を」, 学建書院

科目名	食と発達		
担当教員名	辻 ひろみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

食生活は健康な人々の生活の基礎であることを踏まえ、子どもの発育・発達および特別な配慮などに応じた適切な栄養や食生活とは何か学ぶとともに、保育における子どもの発達に合わせた食育支援、保護者支援に必要な食の知識を学ぶ。

内容

1	ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	ライフサイクルと子どもの食生活の現状
3	子どもの発達と栄養の基本的な知識
4	何をどのくらい食べたらよいか、日常的な献立構造について
5	乳児期の食生活(乳汁栄養)
6	乳児期の食生活(子どもの発育・発達の関係と離乳の実際)
7	幼児期の食生活(幼児期の心身の特徴と食事)
8	幼児期の食生活(幼児期の食生活上の問題と対応)
9	学齢期・思春期の食生活(心身の特徴と望ましい食生活および食の自立について)
10	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
11	特別な配慮が必要な子どもの食生活と対応
12	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
13	食育の基礎知識
14	食育支援の計画から評価の考え方と事例
15	まとめ

評価

レポート20点 課題発表10点 筆記試験 70点 60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】堤ちはる著:子育て・子育てを支援する—小児栄養—, 萌文書林

【参考図書】内田園 他著:子どもの食と栄養, 学建書院

亀城和子 他著:「保育所の食事を通して食育を」, 学建書院

科目名	食と発達		
担当教員名	辻 ひろみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

食生活は健康な人々の生活の基礎であることを踏まえ、子どもの発育・発達および特別な配慮などに応じた適切な栄養や食生活とは何か学ぶとともに、保育における子どもの発達に合わせた食育支援、保護者支援に必要な食の知識を学ぶ。

内容

1	ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	ライフサイクルと子どもの食生活の現状
3	子どもの発達と栄養の基本的な知識
4	何をどのくらい食べたらよいか、日常的な献立構造について
5	乳児期の食生活(乳汁栄養)
6	乳児期の食生活(子どもの発育・発達の関係と離乳の実際)
7	幼児期の食生活(幼児期の心身の特徴と食事)
8	幼児期の食生活(幼児期の食生活上の問題と対応)
9	学齢期・思春期の食生活(心身の特徴と望ましい食生活および食の自立について)
10	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
11	特別な配慮が必要な子どもの食生活と対応
12	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
13	食育の基礎知識
14	食育支援の計画から評価の考え方と事例
15	まとめ

評価

レポート20点 課題発表10点 筆記試験 70点 60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】堤ちはる著:子育て・子育てを支援する—小児栄養—, 萌文書林

【参考図書】内田園 他著:子どもの食と栄養, 学建書院

亀城和子 他著:保育所の食事を通して食育を, 学建書院

科目名	児童文化		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることに深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

内容

- 第1回 児童文化とは何か
- 第2回 子どもの成育儀礼にみる子育ての文化
- 第3回 年中行事と子どもの生活
- 第4回 子どもの伝承遊び
- 第5回 子どもの衣服・食事・部屋
- 第6回 情報化社会と子ども
- 第7回 伝統玩具(人形も含める)と子ども
- 第8回 教育玩具、キャラクター玩具
- 第9回 遊具、公園、遊園地
- 第10回 わらべ唄、唱歌、童謡
- 第11回 おはなしの歴史的変遷(昔話、口演童話、ストーリー・テリングなど)
- 第12回 紙芝居の世界
- 第13回 人形劇、ペープサート、パネルシアターなど
- 第14回 絵本の世界
- 第15回 幼年文学の世界

評価

授業への取り組み方20%、試験80%によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『児童文化 子どものおあわせを考える学びの森』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科目名	児童文学特論		
担当教員名	皆川 美恵子、松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「児童文学特論」として、子どもたちを取り巻く物語世界が、どのようなものを具体的に考察していく。二人の担当者による二部構成で特別講義を進めていくが、前半は、小学校の国語の教科書も編纂している松木により、国語科教材としての児童文学を取り上げる。後半は、皆川により、学校教育場面では取り上げることの少ないと思われる作品を題材にして、子どもの文学の広さと深さについて考察を試みて行く。

内容

前半を松木、後半を皆川と分けて担当する。

- 1回 オリエンテーション 子どもたちを取り巻く児童文学の諸相
- 2回 小学校1年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 3回 小学校2年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 4回 小学校3年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 5回 小学校4年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 6回 小学校5年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 7回 小学校6年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 8回 エリノア・ファージョンの児童文学
- 9回 エリノア・ファージョンの児童文学
- 10回 アリソン・アトリーの児童文学
- 11回 アリソン・アトリーの児童文学
- 12回 フィリッパ・ピアスの児童文学
- 13回 フィリッパ・ピアスの児童文学
- 14回 ルーマ・ゴッデンの児童文学
- 15回 まとめ 物語を享受する子どもたち

評価

意見発表、討議など授業への積極的取り組み方40%、レポート成績60%によって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

『教科書掲載作品(小・中学校編)』 日外アソシエーツ

科目名	総合演習		
担当教員名	長田 瑞恵、上垣内 伸子、野口 隆子、向井 美穂 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	幼児教育基礎実習		
担当教員名	横井 紘子、上垣内 伸子、岩崎 禎子、野口 隆子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の中で幼児と実際に関わり、一人一人の子ども達の心理、人間関係、状況に応じてその場で考え行動していくことを通して、子ども理解および保育者をめざす存在としての自己理解を深めていくことを目的とした、幼稚園における参加観察実習が「幼児教育基礎実習」である。

本学附属幼稚園を含む10 数園の幼稚園に分かれ、隔週で週1 回の実習を行う。実習の翌週は、実習レポートを基に、「幼児教育基礎演習」において話し合いをもち、次回の実習へとつなげていく。春休みには4日間連続の実習を行い3 年次から始まる幼稚園教諭および保育士資格取得のための実習へのスムーズな移行を目指し、保育者としての視点獲得と行動を実習を通して試みる。

内容

1. 隔週での幼稚園参加観察実習

子どもの主体的活動を中心とした保育を展開し、本学科教員と保育実践の共同研究等を行ってきている幼稚園10 数園に数人ずつに分かれて配属され、隔週で週1 回、登園前から降園後まで1 日の実習を3 日行う。

実習翌日までにレポートを作成して提出し、翌週には各自のレポートを基に行う演習に参加する。

2. 幼稚園連続実習

後期の授業終了後に4 日間の連続実習を行う。これまで実習していたクラスで4 日間連続の実習を行い、子どもの遊びや友だち関係、内面を生活の連続性の中で理解していくことを目指す。

実習後にレポートを作成して提出し、総括の話し合いをもつ。

実習につき、15回の授業ではなく、集中となる。

第7週頃：1 日：幼稚園にて学外オリエンテーション / 保育見学・保育参加

第8～14週頃：3 日：幼稚園にて隔週の実習（登園から降園まで1日）

春休み中：4 日：幼稚園にて4日間連続の実習

合計58時間の幼稚園での実習となる。

評価

- すべての実習への参加と、実習日誌の期限内に提出を、単位取得の必要条件とする。
- 実習参加状況、実習態度および意欲、レポート内容、話し合いへの参加状況等により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

幼稚園教育要領解説(フレーベル館)

【参考図書】

津守真 『保育者の地平』 ミネルヴァ書房 376.1/T

科目名	幼児教育基礎演習		
担当教員名	横井 紘子、上垣内 伸子、岩崎 禎子、野口 隆子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼稚園での参加観察実習を行う「幼児教育基礎実習」の事前事後指導という位置づけで、実習事前事後指導と、実習の翌週に、20人規模での話し合いの演習を行う。

“計画 実践 省察”という保育実践の連続性の中で、自分自身の関わりのあり方や子どもの内的世界に対する理解を深め、それを自らの保育行為において具現化していくことの実験を体験し確認していくための授業である。

自分たちの保育記録を基に、少人数でじっくり話し合うことを通して、それぞれが保育における自己課題を見だし、互いに啓発しあい支え合いながら、保育者としての資質をのばしていくことを目指す。

内容

1. オリエンテーション / 事前指導

実習の目的・内容等についての学内での事前指導および、実習園での園長・主任・担任による実習のオリエンテーションを受ける。

2. 隔週での幼稚園参加観察実習後の話し合い

実習の翌週は、各自の保育記録を基に、約20人のグループに分かれて、自分たちの保育実践の中からテーマをあげて話し合う。

確実な保育記録レポート提出と、活発な話し合いへの参加が望まれる。

3. 幼稚園連続実習の事前事後指導

隔週での幼稚園実習で学んだことを確認し、新たな自己課題を設定し、連続実習に向けての準備を行う。

実習後は、各自の保育記録を基に、4日間の中での自分の保育者としての成長を確認し、新たに見いだした保育課題などについての話し合いを行い、実習を総括する。

評価

授業への参加状況、実習日誌や課題の提出および内容、話し合いへの参加状況を6:2:2の比率で評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

幼稚園教育要領解説(フレーベル館)

【参考図書】

津守 真 『保育の一日とその周辺』 フレーベル館 376.1/T

津守 真 『保育の体験と思索』 大日本図書 376.1/T

科目名	保育実習総論		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「保育実習」「保育実習」、「保育特別実習」「保育特別実習」「保育特別実習」、「幼稚園教育実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。保育士資格を取得する場合必修。幼稚園教員免許のみ取得希望者も、必要に応じて受講する必要がある。将来保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

科目の概要

各実習の目的や課題を明確にすると共に、実習前・中・後の具体的なプログラム、実習先に関するインフォメーション、実習の心構えと準備、実習日誌の書き方などを指導する。また、実習を終えた学生の報告会を随時おこない、話し合いを通して経験を共有する。

学修目標

実習は「事前指導-実習-事後指導」という一連の指導を経て実習と認められる。そのことを理解し、授業に積極的に参加する。また、授業の中で進める発展的学習・課題をおこなうことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す。

内容

【前期の主な授業内容】

< 「保育実習」「保育実習」の事前指導 >

- ・授業概要とスケジュール/各実習の目的と方法
- ・実習内容、実習生としての心構え
- ・乳幼児への援助のあり方
- ・実習日誌/指導案/実践演習
- ・実習施設別のグループワーク
- ・個別指導

【後期の主な授業内容】

< 「保育実習」「保育実習」の事後指導 >

- ・実習後の振り返り(グループディスカッション、個別指導)
- ・実習課題(自己課題/保育課題)の確認

< 「幼稚園教育実習」の事前指導 >

- ・3年次「幼稚園教育実習」の目的と方法、心構え
- ・実習内容の確認
- ・幼児期の発達による教材選択や指導のねらい、留意点
- ・実習日誌の意義と書き方/指導案/模擬保育
- ・個別指導

< 「保育特別実習」「保育特別実習」「保育・教育特別実習」の事前指導 >

- ・各実習の目的と方法

・実習履修の手続き

保育実習と教育実習に内容がまたがるので、保育士資格か幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習」とあわせて受講することが望ましい。

評価

授業への参加状況（50％）や課題提出（50％）などから総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<教科書>

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

<参考書>

最新保育資料集 子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育実習		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習」とともに必ず履修しなければならない。(その他「保育実習総論」も資格取得上の必修履修である。さらに保育特別実習「 」もしくは「 」を選択履修すること。)

科目の概要

原則3年次に2週間、保育所で実習を行い、責任実習も先方の保育所との相談の上経験する。保育園における最初の実習となる場合が多いので、まずは全年齢のクラスに1~2日間ずつ入れていただくようにし、年齢ごとの発達とケアのあり方を学ぶ。生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺の仕事を体験する。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、各自の実習課題を明らかにし、学びを深めていくことが必要となる。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に重要である。また、子育て支援における役割、他のスタッフの業務分担や協力関係も学ぶ。さらに保育士の保護者とのかわりを観察し、家庭や地域との連携の必要性を学び問題意識をもってほしい。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、自己課題・保育課題を見つけていく。

内容

< 保育実習 の主な内容 >

- 実習施設の概要の理解、
- 保育所保育の実情の理解(保育の流れ等)
- 乳幼児の発達
- 保育課程・指導計画の理解
- 多職種職員の連携によるチームワークの実情
- 家庭・地域の連携
- 保育方法と保育技能の理解と習得
- 安全・危機管理
- 疾病予防や健康維持を図る配慮
- 保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深める

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。実習依頼にあたって相談がある場合は、指定の期日内に早めに相談をしておくこと。また、実習は原則3年次の夏季休暇中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合がある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング(実習の準備も含めて)を立て、学生生活全体の調整をすること。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

<教科書>

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育実習		
担当教員名	向井 美穂、野口 隆子、上垣内 伸子、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育実習 は、保育士資格取得の必修の実習である。3年次に11日間(90時間)、保育所以外の児童福祉施設 乳児院 児童養護施設 肢体不自由児施設 知的障害児(者)施設等での実習を行う。宿泊実習が原則であるが、実習生の宿泊設備がない入所施設の場合は、通いの実習となる。

学生にとって宿泊実習は不安と緊張を感じるものであろう。不安を克服するために事前にボランティア活動をしたり、実践記録を読んだりして実習に焦点を合わせるようにする。実習に対して実践的なイメージをより具体的に持つことが重要である。配属先の施設について事前学習を自主的に行い、学生自身の実習における具体的目標を明確にした上で実習に望むことが求められる。

複雑多様化していく今日の子ども達のニーズに一貫して答えていくためには、子どもの発達や成長を理解し子ども達ひとり一人にきめ細かいアセスメント(事前評価)を行い、そのニーズに的確に把握し、個々の課題に向けて具体的プログラムを学ぶことは大切なことである。施設の職員・子ども達との共同生活を通して施設の実態に触れるという体験は、自己の抱いていた偏見や先入観を取り除くきっかけとなりうる。同時に施設の子ども達や職員についての理解を通して、新しい児童観・福祉観を身につけ、自分の保育に対する姿勢を見直す糸口とすることをねらいとしている。

内容

具体的な指導は実習総論 の年間30回の計画に従う。

「事前指導 配属先の発表 実習施設の事前報告書作成 初インターンシップ報告書の提出 実習開始 巡回指導を受ける 事後指導(学内反省会) 個別指導(評価表にそって)」の流れにのって進める。

実習先の施設は、大学の指定した施となる。4月末から翌年3月末までに1名もしくは複数で実習を行う。実習は、なるべく授業のない時期に行うので、夏休みや期間休み、学園祭の前後になる場合が多い。しかし、受け入れ施設の都合により授業と重なる場合もでてくる。実習先決定後は、実習先福祉施設の具体的理解を深めることが必要となる。過去のオリエンテーション報告書や福祉施設の機能について事前に調べておくことが求められる。その上で自身の施設実習の具体的目標を掲げ、目標達成に向けてどのような実習をするかをイメージできるよう学習する。

施設における保育士の役割を学びながら、実習を通じて幅広い年齢層、多様な背景をもつ子ども達の生活ニーズを把握し、個別的・集団的に対応していく力量を高めていくこととする。生活をともにしながら保育を実践している施設保育士に求められる幅の広い職務内容を理解しながら、実習生としてどのような学びを深めていきたいかという自覚を持つことが大切である。

また知的障害、身体障害で実習する場合は他の専門職と連携をとるために治療教育や看護・医学やOT作業療法PT理学療法ST言語療法のリハビリテーションの専門を事前に学び、チームワークがとれるようにしておく。職員とのかわりを通しての子どもの理解という視点を忘れないように心掛ける。

評価

実習先の施設による評価を基本としますが、施設によって基準が一律でないので、大学で総合的な評価への読み替えを行う。また実習にあたって必要な提出書類に不備がないことも評価の対象とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大場幸夫・大島恭二編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育特別実習		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育士資格取得のためのの実習として、必修の「保育実習（「保」と略す）」「保育実習（「保」と略す）」のほか、この「保育特別実習（「特」と略す）」か「保育特別実習（「特」と略す）」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図るものは「特」、施設（保育所以外）における拡充を希望するならば「特」を履修することとする。「保」「保」「保育実習総論」を履修後に取り組む実習である。

科目の概要

「特」での実習では、今までの実習や主として「保」の中で探究した自己課題・保育課題と関連づけながら、学びを広げ深めていくことを主たる目的とする。そのため「保」の実習経験と「特」の実習をどうリンクさせるか、各自でよく考え、2週間の実習内容に関するプランを立てる。また、特定のクラスに連続して入れていただき、責任実習をおこなう。

学修目標

各自の学びの課題を明らかにした上で実習プランを立て、受け入れ先の施設の実情に合わせ、大学の実習担当と相談して実習を進めていく。実習時期と内容により事前事後指導が3年次の「保育実習総論」、4年次の「幼稚園教育実習」でおこなう。そのため「幼稚園教育実習」の指定された授業に参加すること。

内容

「保育実習」の経験をふまえ、主として以下の内容に取り組む。

- 保育全般に参加し保育技能を習得する
- 子どもの個人差に応じた援助を理解する
- 多様な保育ニーズに対応した保育の展開を学ぶ
- 指導計画の立案と実践（責任実習）
- 家族や地域社会との連携を学ぶ
- 保育者の倫理について理解する
- 保育への自己課題の明確化
- 保育実習の総括

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受ける。責任実習（一日または半日の保育、または部分）の実施にあたっては、指導者の指導・助言のもと指導案を作成し、保育の実践、評価・反省という一連の保育の営みを体験する。「保育実習」で経験できなかったことにチャレンジする意欲をもって臨んでほしい。実習後は、保育日誌に必要な内容を補充して大学に提出し、一連の保育実習での学びを総括する。

尚、実習は原則2週間（土曜の半日を含む）とし、大学で指導する基準を満たす民間の認可保育所を自己開拓する場合と、大学がすすめる民間の認可保育所に配属される場合とがある。原則「保」とは違う保育所で体験すること。また、実習時期は原則4年生の夏季頃、もしくは大学の授業のない期間にておこなうこととする。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

【教科書】

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育特別実習		
担当教員名	野口 隆子、向井 美穂、山田 陽子、鈴木 晴子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育士資格を取得するための実習として、必修の「保育実習 」「保育実習 ｣のほか、この「保育特別実習 (特)」、この保育特別実習 (特)」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図る場合は「特 」、施設(保育所以外)における拡充を図る場合は「特 ｣ということになるが、受け入れ先との交渉や、その他の実習スケジュールとの関係も考慮しなければならない。また、将来保育所以外の児童福祉施設における保育士を目指す学生が主に選択する実習として位置づけられている。

「保育実習 ｣で行った保育所以外の児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標とする。また児童福祉施設の持つ社会的役割や機能、子どもの家族や地域社会における援助など、子どもを取り巻く社会的環境についても視野を広げた視点を養うことも目標である。

すなわち、将来保育所以外の児童福祉施設で子どもを援助していく専門職員に必要とされる子どもの発達を全人的にとらえる観点を実習により体得しようとする姿勢が必要とされる。

内容

実習先を自己開拓することが求められる。宿泊型および通所型の福祉施設が対象となる。実習先を自己開拓するにあたっては 施設の成り立ち、時代背景、社会的ニーズなど施設を取り巻く環境変化などを理解する 子どもの入所経路や入所理由など、社会的背景を十分に事前学習し施設の果たしている役割、機能を理解する 実習施設の生活環境などを理解する 子供たちや障害のある人々の家族はどのような思いや願いを持って施設を利用しているのかを理解する 施設で生活している人々の抱える問題、それが社会的にどのような状況から生じているのかを理解する、といったことを整理した上で検討することが必要である。

また施設保育士に求められる要素の一つとしてソーシャルワーク的援助が挙げられる。施設における生活場面での直接援助および家族に対する援助といった視点についても学びを深めておかなければならない。さらには実習先によっては障碍に関する専門的知識を有していることが必要とされる。実習先施設に応じた具体的実習計画を立てて実習に臨まなくてはならない。

実習は日数は11日間(半日を含む場合はなるべく11日以上にする)で「通い」型と「宿泊」型の実習形態となる。施設種別は「保育実習 ｣とは別の種別が望ましい。「保育実習 ｣で経験できなかった生活援助計画、個別援助(ケースワーク)、集団援助(グループワーク)計画案を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことが求められる。また生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、さらには実践的な援助が出来るように取り組むことが大切である。実習終了後の日誌においては自身の保育観や社会的養護、障碍に対する見方等についても振り返ることが求められる。

評価

実習先の施設による評価を基本とするが、施設によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価の読み替えを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大場幸夫・大島恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育・教育特別実習		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

保育・教育特別実習は、児童幼児教育学科の学科専門科目である。免許・資格習得にかかわらない学生の自発的な選択による幼稚園、保育所などの児童福祉施設、その他における実習の科目であり、学生の主体的な取り組みが期待される。明確な実習課題を持っている場合に履修を認める。履修希望者は、履修登録前に、実習課題および実習計画書を担当教員に提出し、事前の相談を行った上で履修登録を行う。3年次および4年次の前期オリエンテーション時に履修希望調査を行うほか、それに先立つ個別相談も受け付ける。時間をかけて準備をして意欲を持って実習に臨んでもらいたい。

科目の概要

保育実践を必要とする発達研究、保育方法・保育内容に関する研究、保育者となるための保育実践力の向上などを目的とする、インターンシップの性格を持つ実習である。現場指導者と科目担当者から指導を受けながら、1年間または一定期間の現場実習と、実践記録の作成、それに基づく省察を深める。

学修目標

- ・受講生自身が設定した目標への到達を目指す。

内容

実習にあたっては、実習担当者に実習課題および実習計画の概要レポートを提出する。実習中は実習日誌を毎日実習先に提出し、実習後は、実習前に提出したレポートをもとに考察レポートを作成し、実習先と大学双方に提出する。

実習先は、実習目的に合う実習先を担当教員と相談のうえで決めることとするが、目的によっては出身地の園や施設などを自己開拓することもすすめる。

実習方法および実習時期は、授業に支障のないように実習生と実習先との話し合いによって決め、実習目的、実習先の状況等により、次のいずれかの方法をとることができることとする。

毎週1日実習(12日程度)の実習

2週間継続実習

1週間ずつの分割実習

および の組み合わせ

インターンシップとしての性格ももつ実習であり、実習担当教員と現場での実習指導担当者が連携して指導に当たり、実習生と三者での話し合いを通して、実習課題の探求および保育実践力向上に資する実習となることを目指す。

評価

実習先からのコメント、および提出されたレポートと実習日誌、学内での実習指導参加状況によって総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各実習によって異なるので、受講生と相談して決める。

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名	上垣内 伸子、野口 隆子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科幼児教育専攻の学科専門科目で、幼稚園における教育実習の事前事後指導のための科目である。幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、幼稚園教諭免許状取得のための実習を行う際には、必ず本科目を併せて履修することが求められる。

科目の概要

実習前には、実習を行う幼稚園の組織、保育形態、今回行う実習の目的・目標などの理解を促し、実りある実習につなげていきたい。

実習に求められる様々な知識や技能が習得されているか、幼児理解、保育者の役割の理解などを確認、する。

実習後も、保育日誌などの記録を基に、じっくりと考察・討論し、保育者を目指す自己の保育行為の評価と課題の明確化を促したい。

学修目標

- ・実習に必要な事前学習と準備が整っている。
- ・実習後に自己の保育行為を評価し課題を明確化できる。

内容

(1) 事前指導(参加観察実習)

学内での担当教員による実習の目的・目標、内容等に関わるオリエンテーション

実習園園長・実習担当者を学内に招聘しての特別講義

実習園に出向いての、園長・実習担当、担任等によるオリエンテーション

園の周辺の環境の自己調査と把握、環境特性の理解

(2) 事後指導(参加観察実習)/事前指導(総合実習)

クラス全体、グループ、実習園別、担当年齢別、個別面談等、様々な規模と形態での話し合いを重ねながら、1週間の参加観察実習を振り返り、実習に関しての自己評価を行うと共に、総合実習に向けての課題を設定し、それに向けての準備に取り組む。

総合実習に置いて取り組む指導案作成、責任実習のために、これまでに学んできた知識・技術の確認と、保育日誌等を基にしたの保育対象である子ども・子ども集団の理解に努める。

実習園にて、総合実習に関するオリエンテーションを受ける

(3) 事後指導(総合実習)

実習園においての実習の総括としての反省会

学内での実習報告、これから実習を行う下位学年に向けての発表と話し合いを通して、自分にとっての実習成果は何かについて考える

自己の成長部分、努力が現れた取り組み、反省点などを踏まえて自己評価を行う。

事前指導では、幼稚園教育の基本となる考え方、子どもの生活実態、発達特性など、保育実践の土台となる知識を整理し、

これまでの実習体験や保育シュミレーションなどを通して、保育者としての自己課題を明確にすること、指導計画作成、教材研究など、実習に向けての具体的準備を行うことに取り組む。

自分の保育を振り返って反省し、主体的に評価を行うことが、保育実習後に学内で行う事後指導の要点である。保育実習日誌などの記録を手がかりにして、自己の対象理解と保育行為について、クラスの仲間や指導教員と話し合い、更なる保育実践力の向上に向けて踏み出す契機とする。

評価

学内外での実習指導への参加状況(50%)、実習日誌やレポート等の提出(50%)によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指定する。

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名	上垣内 伸子、野口 隆子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童幼児教育学科幼児教育専攻の学科専門科目であり、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。幼稚園教諭免許状取得のための最終の現場における総合的実習である。

科目の概要

本学科が指定した実習園にて、4週間の教育実習を行う。

保育観察、保育補助、保育計画の立案、教材研究、責任実習を行う。

学修目標

- ・これまでの専門的学習成果、保育技術を与えられた保育条件のもとで発揮すること
- ・幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うこと
- ・社会人、職業人としての基礎的常識、行動のしかたを身につけること
- ・幼児についての深い共感と洞察に基づいて保育の省察をし、よりよい保育実践の改善への手だてを考えることができること

内容

実習期間は参加観察実習1 週間(3 年次後期)、総合実習3 週間(4 年次前期)に分けられる。

実習中は毎日保育日誌を書き、幼児集団を指導する部分実習(数回)および責任実習(1~2 日)を行う。

部分実習・責任実習においては指導計画を作成し、実習担当保育者から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とするが、帰省先での実習など特例は認められる。

詳細は、「実習の手引き」を参照のこと。

評価

実習指導園に実習ごとに評価を頂き、それを参考に実習担当教員が評価する。評価の観点は「実習の手引き」に示してある。

実習日誌、事前事後指導における出席、提出物等も評価対象になる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指定する。

科目名	保育学		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目です。幼児教育学の中でさらにこの専門領域について追究し専門性を深めていくことを希望する学生を対象としています。ここでの学びが卒業研究に続いていきます。

科目の概要

現在の子どものおかれている社会環境のもとで、保育の場に何が求められているのかについて考え、各自の保育観つくり役に役立つことを目的とする科目です。

保育の基礎となる発達理論について、その概念を抑え、保育という窓からどのようにとらえられるのか、それら発達理論を踏まえて保育をどのように展開していくのかについて、これまで学習してきた保育の知識と実習体験を生かしながら考えていきます。

資料や映像等を用いて、具体的な保育実践を通して保育を考えていきたいと思います。

学修目標

- ・保育者に求められる多様な役割を構造化してとらえる。
- ・1年間の保育の流れや卒園までの発達の経過を構造化してとらえる。
- ・自分の保育実践に新たな視点を加えることを目指す。

内容

1	保育とは
2	子どもと保育者(大人)の関係
3	自発的な活動としての遊び
4	愛着理論について理解する
5	愛着理論を保育の営みの中でとらえる
6	愛着理論を踏まえた保育援助の在り方について考える
7	アフォーダンスについて理解する
8	「環境を通しての保育」とアフォーダンス
9	アフォーダンスを踏まえた環境構成の在り方について考える
10	アフォーダンスを踏まえた保育援助の在り方について考える
11	心の理論について理解する
12	「仲間関係の発達」と心の理論
13	心の理論と特別な配慮が必要な子どもの理解と保育援助
14	心の理論を踏まえた長期的視野に立った指導計画と保育援助
15	まとめ

評価

授業への参加状況（30%）、学期内の小レポート（40%）、学期末のレポート（30%）の比率で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回プリント資料を配布する

【教科書】守永英子『保育の中の小さなこと大切なこと』フレーベル館

【推薦書】津守真『保育者の地平』ミネルヴァ書房 376.1/T

津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

その他、授業時に指示する

科目名	保育学		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は関連する他の科目における学びや実習体験での学びを統合させながら、保育の本質について掘り下げて考える。

科目の概要

「子どもを中心にした保育」を目指して、保育の営みについて把握し、さらに保育の思想を学ぶことで、各自の子ども観及び保育観を振り返りながら、保育の本質を学ぶ。

学修目標

1. 保育の営みを把握する
2. 保育的關係における子ども理解と援助の方法を理解する
3. 保育の思想と歴史的変遷から保育の根源を理解する

内容

1	子ども観と保育の営み
2	保育的關係から紡ぎ出す子ども理解
3	保育の現状と機能
4	子どもが生きる保育の場
5	遊びの特性と目的
6	遊びと子どもの発達
7	保育の内容
8	保育の環境
9	保育の方法・形態
10	保育の計画と記録・評価
11	保育の思想1、オーエン・フレーベル・モンテッソーリ
12	保育の思想2、シュタイナー・倉橋惣三・城戸幡太郎
13	保育の思想3、デューイ・ハント
14	保育者の役割
15	まとめ

評価

レポート(40%)、筆記試験(50%)、通常の授業態度(10%)により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】諏訪きぬ他『改訂新版 現代保育学入門』フレーベル館

【推薦書】ステファニー・フィーニイ他 Who am I 研究会訳『保育学入門』ミネルヴァ書房

【参考図書】子どもと保育総合研究所森上史朗他『yaよくわかる保育原理第2版』ミネルヴァ書房

その他必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	保育学演習		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（選択科目）です。卒業研究につながる演習科目です。科目担当者の研究室で卒業研究を進める学生は、この科目を履修することが求められます。

科目の概要

「保育学」で学んだことを継続発展させ、文献購読や、具体的な保育事例研究を行います。自らの保育実践記録や、保育実践研究、事例研究、保育記録を基に、保育理解、子ども理解を深めていくことを目指します。

受講者には、自分の保育実践・保育観察の記録を作成して参加することを求めます。

学修目標

- ・卒業研究をすすめていく上で求められる基礎的な知識や技能を獲得する。
- ・研究論文に親しみ、保育研究法の理解をする。
- ・保育実践記録の作成と読み取りの力を養う。

内容

1. 文献講読

保育理論と保育実践に関わる研究論文や著書を分担して読み、討論、報告する。

2. 保育実践記録等をめぐる討論

保育者による実践記録・事例研究や観察記録・面談記録等を読み、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。自らの保育観・児童観・発達観の形成につなげると共に、実践研究の方法を学ぶ。

3. 保育の観察と討論

実際の保育場面を観察し、それを基にテーマを設定して話し合う。

4. 保育実践記録の作成と報告

受講者自身の実践記録や観察記録等を作成、報告し、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

評価

授業でのレポート発表と討論への参加状況(70%)、学期末のレポート(30%)により評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示する

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

科目名	保育学演習		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質

この科目は、幼児教育学科の学科専門科目（選択科目）です。卒業研究につながる演習科目です。科目担当者の研究室で卒業研究を進める学生は、この科目を履修することが求められます。

科目の概要

「保育学」で学んだことを継続発展させ、文献購読や、具体的な保育事例研究を行います。自らの保育実践記録や、保育実践研究、事例研究、保育記録を基に、保育理解、子ども理解を深めていくことを目指します。

受講者には、自分の保育実践・保育観察の記録を作成して参加することを求めます。

学修目標

- ・卒業研究をすすめていく上で求められる基礎的な知識や技能を獲得する。
- ・研究論文に親しみ、保育研究法の理解をする。
- ・保育実践記録の作成と読み取りの力を養う。

内容

1. 文献講読

保育理論と保育実践に関わる研究論文や著書を分担して読み、討論、報告する。

2. 保育実践記録等をめぐる討論

保育者による実践記録・事例研究や観察記録・面談記録等を読み、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。自らの保育観・児童観・発達観の形成につなげると共に、実践研究の方法を学ぶ。

3. 保育の観察と討論

実際の保育場面を観察し、それを基にテーマを設定して話し合う。

4. 保育実践記録の作成と報告

受講者自身の実践記録や観察記録等を作成、報告し、保育内容や子ども理解、援助方法等について話し合う。

評価

授業でのレポート発表と討論への参加状況(70%)、学期末のレポート(30%)により評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業開始時に指示する

【推薦書】津守真・森上史朗監修『倉橋惣三文庫全10巻』フレーベル館

科目名	保育学演習		
担当教員名	山田 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科の性格

本科目は「保育学」で学んだ保育の本質を基盤にしながら、「遊びをとおして総合的に保育する」ことについて、体験学習や教員や学生および学生同士の意見交流を図りながら、子どもと保育者の両方の立場から理解する。

教科の概要

「子どもが遊ぶということと発達するということ」「子どもの遊びを援助するということ」について、それぞれの遊びのおもしろさや楽しさに共感することによる子ども理解から出発し、遊びにおける子どもの発達の姿を捉える際の肯定的な見方を培い、多様な援助の方法を知る。

学修目標

1. 子どもが感じる遊びのおもしろさや楽しさの発見や共感する感性を磨く
2. 遊びの中での子どもの育ちを読み解く際の肯定的な見方について理解する
3. 子どもの遊びに適切な援助をするために多様な援助の方法を知り、把握する

内容

1	遊びを中心とした保育とは
2	幼少期の遊び体験の振り返り
3	名もない遊びの面白さと楽しさ
4	ルールのある遊び・探検遊びの面白さと楽しさ
5	ごっこ遊びの面白さと楽しさ
6	生き物とのかかわりの面白さと楽しさ
7	絵本や紙芝居の面白さと楽しさ
8	遊び場面のエピソード記録の読み解き
9	遊びにみられるその子らしさの育ち
10	子どもと一緒に遊びをつくる保育者の援助
11	遊びの環境づくり
12	乳児の遊びと親子をつなぐ遊び
13	障がいのある子どもの遊び
14	遊びを通して総合的に保育すること
15	まとめ

評価

レポート(40%)、試験(50%)、通常の授業態度(10%)により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に

満たなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】河崎道夫『新保育論3 あそびのひみつ 指導と理論の新展開』ひとなる書房

【推薦書】小川博久『遊び保育論』萌文書林

その他必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	保育臨床学		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本授業では、日常生活の当たり前や各自が備えている認識の枠組みを問い直すことから、子ども、ひいては人間=自分自身をより深く豊かに理解していくことを目的とする。

具体的には、人間にとって根源的なテーマをとりあげ、文献購読、保育実践事例の検討を行う予定である。様々な保育実践のエピソードに触れることから、保育者と子どもとが織りなす世界に触れ、保育のおもしろさ・難しさ・複雑さも感じてほしい。

随時配布する資料やリアクションペーパーで授業の振り返りを行い、子どもを理解するまなざしがより深く豊かなものに再構成されることを期待する。

内容

1	保育・教育における臨床とは何か
2	保育・教育における臨床とは何か
3	子ども観・家族観の問い直し
4	様々な表現をめぐって考える ことば(その裏に隠されている思い)
5	様々な表現をめぐって考える 気分と感情
6	様々な表現をめぐって考える からだ
7	遊びをめぐって考える 遊びとは何か/教育と遊びの関係性
8	遊びをめぐって考える 実際に遊んでみよう
9	遊びをめぐって考える 現象学的遊び論
10	遊びをめぐって考える 保育者が遊びを援助するということ
11	空間とモノ
12	保育を考える 実践における学び-生活と文化-
13	保育を考える 保育者の揺らぎ
14	保育を考える 保育実践と省察
15	まとめ

評価

平常点20点 小レポート30点 まとめの小論文50点 で評価する
60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内でプリントを配布する

科目名	保育臨床学		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

働く母親が増加し、保育や幼児教育のニーズは増えているが、これは量的のみならず保育内容の多様化も求められている。ゼロ歳児保育、病児保育、病後児保育、病棟内保育などこれからの保育現場は広がりを見せている。健康な時だけの保育ではないため、様々な病気の理解や、薬の飲み方、さらに学校保健分野も学習する必要がある。子どもと一緒に病気と付き合える保育士を目指してほしい。また、子どもたちの健康維持のための理解のできる健康教育も学んでほしい。小児科専門医師が視聴覚教材を使い、分かりやすい授業を実施する。

内容

- 1,発熱、腹痛、嘔吐、下痢など子どもによくある症状
- 2,こどものけが、スポーツ外傷
- 3,かぜ症候群と保育の注意
- 4,熱中症、日射病などの夏の保育の注意
- 5,食中毒と保育
- 6,子どもを取り巻くタバコ環境
- 7,女性と喫煙
- 8,小児の生活習慣病
- 9,子どもによくある感染症1
- 10,子どもによくある感染症2
- 11,最近の予防接種
- 12,学校保健安全法
- 13,感染症サーベイランス
- 14,病時保育と与薬
- 15,まとめと解説

評価

定期試験70% レポート30% によって評価し60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は再試験を実施する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書] 適宜プリント資料を作成、配布

[推薦書] 日本外来小児科学会編著「お母さんに伝えたい子どもの病気ホームケアガイド」医歯薬出版株式会社

日本外来小児科学会編著「お母さんに伝えたい子どものくすり安心ガイド」医歯薬出版株式会社

科目名	保育臨床学演習		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育臨床学と同様、より豊かに乳幼児期の子どもの世界を理解することをめざす。

序盤では、今日的な課題である保幼小連携をテーマに現状と課題を検討し、続けて保育における行事の意義や実際についてビデオをもとに考える。中盤では、教科書を用い、テーマごとに保育のエピソードを読み、考察する。ここでは、自分でもエピソードを書くことを課題としたい。後半では、インタビューデータやエピソードを用いた論文を講読する。

後期では卒業研究を書くにあたって、問いをたてたり、自分で感じたことや考えたことを的確に言語化する力をつけることを意識し、リアクションペーパーやエピソードにまとめることを求める。

内容

1	保幼小連携から見えてくる保育と教育
2	保幼小連携から見えてくる保育と教育
3	保幼小連携から見えてくる保育と教育
4	行事「運動会」の意義と実際
5	行事「運動会」の意義と実際
6	エピソードを読んだの考察(グループワーク)
7	エピソードを読んだの考察(グループワーク)
8	エピソードを読んだの考察(グループワーク)
9	エピソードを読んだの考察(グループワーク)
10	エピソードを読んだの考察(グループワーク)
11	エピソードを読んだの考察(グループワーク)
12	実践研究の意義と実際
13	論文講読
14	論文講読
15	論文講読

評価

平常点20点 リアクションペーパー30点 エピソード20点 期末レポート30点で評価する。合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

『エピソード記述で保育を描く』鯨岡峻 鯨岡和子 著 ミネルヴァ書房 2009

科目名	保育臨床学演習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育のニーズの多様化の中で、病気についての理解を持つ保育士をめざし、前期の保育臨床学の授業を踏まえ、さらに演習を等して主体的な取り組みを期待する。子どもが理解できる健康教育の実践の為にグループワークの中で各自が唱、紙芝居、人形劇、ロールプレー等を工夫する。

内容

- 1,発熱、下痢、脱水時の水分補給と食事
- 2,発熱、下痢、脱水時の食事メニュー作成
- 3,保育現場での感染症事例検討
- 4,保育現場での感染症拡大防止対策
- 5,食物アレルギー事例とエピペン注射
- 6,食物アレルギー対応と食物成分表示の見方
- 7,救急時の対応とA E D使用法
- 8,救急蘇生実習
- 9,子どもの喫煙防止教育
- 10,怪我や外傷時の対処
- 11,子どもの事故防止ポスター作成
- 12,子どもの生活習慣改善について
- 13,健康教育紙芝居の作成
- 14,健康教育紙芝居の発表
- 15,まとめと解説

評価

レポート30% 実習参加度30% まとめのテスト40% で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は面接にて評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書]適宜プリント資料を作成、配布

[推薦書]田中哲郎監修 齋藤麗子共著「子育て支援における保健相談マニュアル」日本小児医事出版社

科目名	保育実践論		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

授業では、保育に関連する近年の様々なトピックや調査研究を取り上げ、保育の実践に結びつける知識を身につけ学ぶことを目的としています。尚、後期に開講される保育実践論演習とあわせて履修することが望ましいと考えています。

科目の概要

授業の中では子ども・保育者・園の3つの観点から、保育実践及び保育実践を理解するための方法を学びます。事例や視聴覚資料など、様々な資料を用いながら考えたり、グループディスカッションをおこなう機会を設けたりすることでさらに理解を深めたいと思います。

学修目標

受講者が自分自身の興味関心の枠組みを広げ、知識や研究と実践を結びつけること、思考する力・実践する力を養う。

内容

1. 授業概要やスケジュール、評価等の解説
2. 保育の「研究」とは
3. 「問い」をたてる
4. 保育研究の方法論
5. 保育研究：グループディスカッション
6. “見える保育”と“見えない保育”
7. 映像から見る保育 : 保育の視点
8. 映像から見る保育 : 保育の改善
9. 保育記録
10. 保育の質と評価
11. 保育者の専門的発達 : 保育者の成長とメンタリング
12. 保育者の専門的発達 : 園文化と学び、園内研修
13. 子どもを取り巻く環境の変化
14. 子どもの学び：保育の国際比較研究
15. 総括

評価

授業への参加度や課題提出、授業終了後のコメントペーパー(50点)、期末レポート(50点)により評価をおこない、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価 文部科学省

秋田喜代美著 「保育の心もち」 ひかりのくに

秋田喜代美著 「保育のおもむき」 ひかりのくに

科目名	保育実践論演習		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

前期科目「保育実践論」で学んだことをさらに発展させ、保育に関する研究やその方法を具体的に学び、保育に携わる上で生じる疑問点や問題点を追求する力を養います。

科目の概要

保育を理解する上で、様々な調査研究とその方法に親しみ、保育をより多角的に理解する力、子どもを見る目を培うことを目的としています。そのため、授業内でとりあげるテーマを設定する場合がありますが、受講者の人数とニーズに応じてテーマを共に考えてグループワークをおこなったり、文献購読を通してグループワークをおこなったりする場合があります。

学修目標

保育を学び理解するための視点を構築します。受講者は、レジュメ作成と発表を担当し、内容の理解を図るとともに、発展的な問題提起をおこなうことが求められます。

また、グループワークを通して互いの意見・考えを交換し学びあう経験を積むことで、個々の学びだけでなく、協同的に学ぶ意欲を培います。積極的に参加する姿勢を持ってほしいと考えています。

内容

主として以下のような授業内容を予定しています。

- .はじめに：授業の目的と概要・評価の説明
- .子ども、保育者、園からみた保育実践
- .保育探究のための方法とは / テーマ、グループの設定
- .プレゼンテーションの技法
- .発表（受講者の人数に応じて、スケジュールを決定します）
- .グループワーク
- .まとめ

評価

授業への参加や課題の提出（50点）、発表とグループワーク（50点）から評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で指定します。また必要に応じて随時資料を配布する予定です。

科目名	発達心理学		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間の発達とは何かについて特に心理面に焦点を当て、研究方法や明らかにされて来た知見、今後の研究課題などについて、学生一人一人が問題意識を持ちつつ理解することを目指す。

科目の概要

乳幼児期から児童期への発達を中心に、最新の研究成果を紹介しながら、心理学に関連する様々な領域の発達について理解を深める。日常の経験や実習での体験などと併せて考えていくことにより、人間の発達について自ら包括的に考える力を養いたい。

学修目標

- ・乳幼児期から児童期への心理学的発達の特徴を研究例を通して理解する。
- ・最新の研究知見を日常の経験や実習での体験などと結びつけて考察し、人間の発達について包括的に考える力を身につける。
- ・各回の講義後に出される課題を次回授業開始前までに提出し、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

内容

1	発達心理学とは
2	人生における胎児期・乳幼児期の意味
3	人間発達の可塑性
4	母子相互作用
5	世界の認識
6	気質・社会性
7	象徴機能の成立と言語発達
8	言語の機能と会話の発達
9	記憶
10	心の理論
11	遊びの発達
12	思考と語り
13	科学する心
14	生活世界から学びの世界へ
15	まとめ・質疑応答

評価

授業中の提出課題(15回)100点として評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 内田伸子編 『よくわかる乳幼児心理学』 ミネルヴァ書房

【推薦書】 『生涯発達心理学とは何か:理論と方法(講座生涯発達心理学;第1巻)』無藤隆・やまだようこ編集(金子書房)

『人生への旅立ち:胎児・乳児・幼児前期(講座生涯発達心理学;第2巻)』麻生武・内田伸子編(金子書房)

『子ども時代を生きる:幼児から児童へ(講座生涯発達心理学;3)』内田伸子・南博文編(金子書房)

科目名	発達心理学		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ことばによって人は勇気付けられ、しかしことばによって人を傷つけることもある。そんなことばを私たちはどうやって獲得してきたのだろうか。

この科目では人間の発達の中で、特に「ことば」に焦点をあてて、乳幼児のことばや思考の発達、ことばの発達の障害について理解を深め、ことばを育てる初期環境の重要性を考える。

内容

1	ことばと思考の発達について：導入
2	ことばの獲得を支えるもの
3	ことばの発達過程
4	語彙の発達
5	読み書き能力の発達
6	絵本との出会い
7	前半のまとめ
8	会話の発達
9	ことばの発達の個人差
10	第2言語獲得
11	言語発達の障害の基礎
12	言語発達の障害の実際
13	子どもの思考(1)
14	子どもの思考(2)
15	まとめ

評価

毎回授業内の感想・コメント30点、期末筆記試験70点で評価を行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】岩立志津夫・小椋たみ子編 『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房

その他、適宜資料を配布する。

【推薦書】柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編『保育内容「言葉」』ミネルヴァ書房

内田伸子編『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房

科目名	発達心理学演習		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

発達心理学や関連領域(保育実践など)の実証的研究論文を中心に講読し、研究の意義や批判点について参加者全員で討論する。

科目の概要

研究の目的、方法、結果、考察を読みこなすスキルを身につけ、実際に研究計画を立てる力を養うことを目的とする。学生一人一人が1本ずつ発達心理学や関連領域の実証的研究論文を講読し、内容を要約して発表し、研究の意義や批判点について参加者全員で討論する。

前期に発達心理学を履修済みの学生のみ受講を許可する。また、4年次の卒業研究に発達心理学分野を選ぶ学生は履修していることが望ましい。

学修目標

- ・発達心理学の古典的論文を通して、専門知識について理解を深める。
- ・各人が自分の担当文献の内容をまとめたレジュメを作成し、内容を発表することで、研究の目的、方法、結果、考察を読みこなすスキルを身につける。
- ・研究の意義や批判点について参加者全員で討論することで、批判的思考力、課題解決力を養う。

内容

1	授業ガイダンス：レジュメ作成方法,発表の方法
2	担当教員による発表・討論
3	学生による発表・討論
4	学生による発表・討論
5	学生による発表・討論
6	学生による発表・討論
7	学生による発表・討論
8	学生による発表・討論
9	学生による発表・討論
10	学生による発表・討論
11	学生による発表・討論
12	学生による発表・討論
13	学生による発表・討論
14	学生による発表・討論
15	まとめ

評価

分担分の発表80点、他の学生の発表時の取り組み20点として評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合、再試験とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】杉村伸一郎・坂田陽子編 『実験で学ぶ発達心理学』 ナカニシヤ出版

その他、適宜、資料を配付する。

科目名	発達心理学演習		
担当教員名	大宮 明子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

言語発達心理学や保育(言語領域)の実証的研究論文を中心に講読し発表することにより、論文の読み方、レジュメの作り方、プレゼンの仕方、実際に研究計画を立てる力を養うことを目的とする。またこどものことばのデータ収集を行い、発表する課題を課す。4年次の卒業研究に言語発達心理学分野を選ぶ学生は履修していることが望ましい。

内容

学生が1人ずつ言語発達心理学や保育(言語領域)の実証的研究論文を中心に講読し、レジュメを作って内容を発表し、研究の意義や今後の展開について参加者全員で討論する。またこどものことばのデータ収集を行い、発表する(グループ発表)。

- (1)授業ガイダンス
- (2)担当教員による発表
- (3)～(14)学生による発表
- (15)まとめ

評価

分担部分の発表80点、他の学生の発表に対するコメント20点として評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】杉村伸一郎・坂田陽子編『実験で学ぶ発達心理学』ナカニシヤ出版

その他、適宜資料を配布する。

【推薦書】戸田雅美編著『演習 保育内容 言葉』建帛社

科目名	臨床心理学		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は幼児教育専攻の専門科目であり、選択科目である。

臨床心理学は個人や集団に生じた困難な問題の解決を、心理学的知識と技術による対人関係的援助によって促進しようとする実践的学問である。乳幼児期、児童期を中心に、人格形成の途上にあり、可能性に満ちた存在である子どもへの個別的な人間理解を深めるためのアプローチの仕方や心理的援助の方法についての基礎理論を学ぶことを目標とする。

学修目標は次の3点である。

子どもへの適切な援助ができるための前提となる子どもの発達過程を十分に理解できる。

パーソナリティーや家族環境、集団関係などの多面的な視野から子どもの臨床的課題を把握できる。

アプローチの基盤となる臨床心理学の基礎理論を理解する。

内容

臨床心理学の理論と方法の基礎を学び、保育現場での確かな心理臨床的な援助を子どもや子どもの保護者へ実践するために必要な臨床的なアプローチの基礎理論への理解を子どもの心理臨床の実践例や臨床技法の実習体験と対応させながら深める。

臨床心理学とは

臨床心理学の課題と研究法

子どもの心理臨床

現代社会と子ども

子どもへの全体的・総合的アプローチ

子どもの発達と臨床的課題

健全な心身の発達と不適応

子どもの問題のとらえ方

関係的視点からとらえる子どもの発達と心理臨床の基礎

臨床心理学の基礎理論

子どもの臨床的課題の理解

事例研究とグループ討議

心理的援助の方法

プレーセラピー（遊戯療法）の実践について

まとめ

保育現場での臨床的なアプローチに必要なとされる基本的な資質の養成活動を行為法によって行う。感性、認識、行為の三つのレベルの資質訓練における行為体験の積み重ねと双方向的なグループ活動の展開を重視するため、授業集団の人数に上限を設ける。

評価

レポートへの評価（60%）と授業への参加態度（40%）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 使用しない。プリントを配る。

推薦書 神田久男、赤井美智子他共著 「子どもの発達と心理臨床」 樹村房

科目名	臨床心理学演習		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育学科の専門科目であり、「臨床心理学」を履修後に、選択することが望まれている選択科目である。

発達臨床法の理論と技法についての学習とその実践力の向上に焦点を絞った演習科目である。保育現場の実習体験や集団行為療法・心理劇における臨床教育の展開による多様な役割体験を積み重ねることを通して、幼稚園、保育所、地域の子育て支援センターなどの保育現場で展開可能な発達臨床的なアプローチの理論と実際、技法についての基本を認識と行為の両方のレベルにおいて学ぶ演習科目である。

さらに、実際の保育現場での導入、実践が望まれる遊戯療法や子ども向きの表現療法を集団で役割を交換しながら体験し、集団でのシェアリングを重ねることで、基本理論への理解を深め、実践力を身につけることを目指す。

内容

ここで学ぶ「発達臨床」とは、子どもの情緒の発達や自我形成、豊かな人間関係や社会性の発達、認知の発達・学習などにおいて、より望ましい方向への変容を目的とし、主として臨床心理学的方法を基盤として行われる臨床活動を指しており、次のような内容についての学びを展開する。

発達臨床法の基本的な考え方

子どもの生活状況と発達への多面的な理解による個別的な臨床的課題の把握

発達臨床の方法

・治療的アプローチ(遊戯療法等) ・教育的アプローチ ・人間関係的アプローチ(心理劇,関係状況療法、プレールームでの心理劇用舞台を使つての役割行為体験とシェアリング)

発達臨床の事例研究

・臨床玩具や描画、心理劇の導入について・保育者と乳幼児と物との相互関係性、力働性の把握についで(子どものテリトリー意識など)

・臨床技法の理解と応用 ・子どもの保護者との連携

・日常の保育場面での実践事例

児童臨床者としての資質訓練は次のような場で行い、保育、発達臨床における理論、技法についての統合的な理解を深め、保育現場での確かな実践力の向上につなげる。

行為法・心理劇における臨床教育活動では、多様な役割体験や自他の関係認識の拡大、保育状況を关系的に構成する物(遊具、舞台、空間等)の機能への理解と活用技法の学びを目指す。

評価

レポート（70％）の成績と、演習への参加状況（30％）を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 使用しない。プリントを配る。

推薦書 神田久男、赤井美智子他共著 「子どもの発達と心理臨床」樹村房

その他の推薦書は必要に応じて、指示する。

科目名	歌唱表現論		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は3年前期に開講するもので、歌唱法 ・ で得た知識や技術及び幼児に関わる専門的知識について深く理解する。

科目の概要

歌唱及び専門教育に関わる必要事項を取り上げ、歴史や教育・発達・環境・指導法などについて、その背景や意義、問題点など、ビデオや事例などを参考に学修する。

学修目標

保育者として、現場でのニーズに適宜対応できる知識と技術に裏打ちされた表現力と指導力の獲得。

内容

2・内容

- 1、子どもの歌に関する歴史と時代背景、意義、解釈ほか
- 2、わらべ歌・唱歌・童謡・子どもの歌
- 3、声域と声の発達
- 4、音声障害・小児嘔声・怒鳴り声
- 5、詩と音楽
- 6、読み聞かせ・マザーリーズ
- 7、早期教育とは
- 8、早期教育の必要性及び子どもに与える影響
- 9、胎教音楽・音感教育・お稽古ごと
- 10、子どもの音楽的発達及び表現
- 11、音楽環境
- 12、テレビ視聴の問題点
- 13、子どもとメディア音楽
- 14、保育者の音楽指導における資質及び能力・役割と援助
- 15、まとめ

評価

試験(80%)レポート(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】加宮葵 『子どもが音楽を好きになるとき』 音楽之友社 376.157/K

畑中良輔 『日本名歌曲百選 詩の分析と解釈』 音楽之友社 911.66/N/1-2

科目名	歌唱表現論演習		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年後期に開講される演習で歌唱法 . . . 及び歌唱表現論で学修した知識及び技術を活用し、各人の狙いに合わせプログラムを作成し実践。

科目の概要

教育実習を前提に保育現場を想定した音楽に関する授業計画を作成し模擬保育を行い、受講者相互に指導上の問題点や解決策を検討する

学修目標

- 1、保育現場における音楽に関する指導計画の立案
- 2、実践による表現力と指導力の修得
- 3、話し合いによる他者の理解と客観的考察

内容

- 1、模擬保育の意義
- 2、事例紹介
- 3、実習園の状況に合わせ計画立案
- 4、指導案の内容確認及び練習
- 5、音楽表現について
- 6、保育の中の表現
- 7、模擬保育実践
- 8、合評会
- 9、実習園の実践報告
- 10、実習園の音楽事情報告
- 11、楽器と演奏法
- 12、合奏の意義と指導
- 13、事例紹介・選曲
- 14、立案と実践
- 15、まとめ

評価

模擬授業演習(80%) 実践報告(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】後日指定

科目名	造形保育論		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

子どもたちは幼稚園・保育所という家庭とは異なった生活の場の中でも、「もの」と関わり人とかかわる。その「もの」との関わり方捕らえ方で保育も大きく変わる。子ども自らが主体的に生きることを願って行われる保育であるなら、当然自ら感じ考え行動していくことを保育という規範の中で認め励ますことが重要となる。

科目の概要

造形は人間の本性に関わりながら発生する行為そのものであるだけに、そうした保育手段のひとつとしての造形の意義は大きい。

保育全体を見通しながら造形活動の役割と意義を見出し、実践のための基礎づくりをすることがねらいである。子どもの成長発達に呼応した提案、季節や自然との触れ合いなど子どもの興味関心を起点にした活動展開、活動の中で育まれる人との関わりなどに視点を置いて学ぶ。

学修目標

子どもたちの成長発達を保証し、意欲的に行動できる子どもたちに育つ環境づくりに関われる人材となるよう自らの保育力を高めることを目標とする。

内容

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます意義に気づくために、実際の保育や子どもたちの作品などをVTRなどで提示し、造形を通じた保育のあり方を考える。さらに、身近な自然や素材との出会いを保障する環境づくりや、子どもの強い興味関心に支えられた保育展開が図れるための考察と研究を行う。

- 1週 プロローグ
- 2週 保育は生活
- 3週 内的循環論
- 4週 内的循環と援助・刺激
- 5週 コミュニケーション
- 6週 保育のパターンと援助
- 7週 集中と拡散
- 8週 応答的環境
- 9週 共同と協同
- 10週 素材のもつ特性
- 11週 造形発達の目安
- 12週 子どもの造形教育の歴史
- 13週 領域「表現」のポイント・領域を超えて
- 14週 保育の二重構造
- 15週 エピローグ

評価

講義を通して学び、感じ考えたことや実際に試してみたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集とすること（60％）。まとめ方は造形表現を手がかりとした保育展開が可能になることが条件となる。そのスケッチブックによって、乳幼児と関わる感性、意欲、実践力を評価する（40％）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼少年教育研究所編 『スペースデザイン』 チャイルド本社刊

平田智久著 「毎日が造形あそび」学習研究社刊

科目名	造形保育論演習		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活の中で自ら感じ考え行動する乳幼児を、造形を通して認め励ます意義に気づくとともに、身近な自然や素材との出会いを保障するための保育環境づくりを行える感性を磨くことや、子どもの強い興味関心に基づいた保育展開が図れるための環境づくりを可能にできる能力を磨くことが重要となる。

科目の概要

身近なさまざまな素材の可能性を自らが開発し、子どもの発達や興味関心に呼応させて提案できる資質を磨くことであり、造形的考察と実践的研究をすることが主なねらいである。

その為にはうまい下手ではなく、行動しながら考えイメージをひろげられる「造形的思考力」を高めていく努力を必要とする。

学修目標

保育環境づくりや子どもの発達や興味に呼応させた保育活動を造形的視座から考え実行できる能力を開発することであり、実際に幼稚園や保育所での実習を活用して、实际的に学ぶことを目標とする。

内容

1～4 発達と造形行動と...

5～8 心情と造形行動と...

9～12 想像と造形行動と...

13～15 協同と共同と造形行動と...

以上などのような切り口でひとりひとりの充実と集団の充実を図るための造形行動を、具体的に素材に触れて試し確かめて自らの能力開発を行い、造形を通じた保育活動が展開できるようにする。

さらに具体的な試行活動から生まれた作品は保育現場で役立つ教材開発にもなる。

評価

講義を通して学び、感じ考えたことや実際に試してみたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。まとめ方は造形表現を手がかりとした保育展開が可能になることが条件となる。そのスケッチブックや作品を通して、乳幼児と関わろうとしている感性、意欲、実践力(40%)も評価する。しかし、作品の良し悪しでの評価はしない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に定めない。適宜参考図書を紹介する。

科目名	身体表現論		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身体表現とは、自分自身の身体を素材として、その運動が媒体となって、自分の思いを外に出し、他へ伝えようとするこ
とで成立する表現の世界である。様々な身体表現形式の歴史を概括した上で、人間にとって身体表現がどのような意義のあ
るものであるかを考える。合わせて保育における身体表現の活動の意義、指導上の留意点などを考えていく。

内容

からだと運動

～ 幼児期の身体表現をめぐって

～ 幼児期における身体表現の指導法について

様々な身体表現の形式をめぐって

身体を感じる、身体で感じるということについて

感性について

表現ということについて

コミュニケーションとしての身体運動

受講資格：「身体表現論」と同時に「身体表現論演習」が受講可能であること

評価

授業への取り組み方を基本とし、レポート・記録ノートの内容等から総合的に判断する。

平常点60%、レポート40%で評価する。

出席回数10回未満の場合は単位を認めない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】S・スティンソン 『幼児のためのダンス』 不昧堂

長田 弘 『黙されたことば』 みすず書房 911.56/0

竹内敏晴 『思想する「からだ」』 晶文社 804/T

鷺田清一 『悲鳴をあげる身体』 PHP 新書 114.2/W

科目名	身体表現論演習		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

「身体表現論」及び既に履修した「身体表現基礎」「身体表現・指導法」を基に、自らの身体表現に関わる能力の進展を計ると共に、身体表現への興味関心を広く深く掘り下げることを目的とする。また、幼児期における身体表現活動の教育的意義、その発育・発達について、教材研究及びその指導法の検討を通して考えていく。

内容

< 自分自身の身体へ向かう >

身体への感性を養う

- 自らの身体を感じ、他者の身体を感じる
- 自らのボディ・コントロール能力を高める
- 動きのボキャブラリーを増やす

< 幼児期の身体表現活動を考える >

- ～ 幼児期における身体表現活動の芽生えをとらえる
- ～ 保育の場での身体表現活動を引き出す教材の工夫
- ～ 保育の場での身体表現活動を展開していく指導法の工夫
- ～ 身近な物を利用して、運動遊び、表現遊びへと発展させていく工夫
- ～ フォークダンスの指導法の工夫
 - その特徴、基礎用語の理解
 - 幼児に指導する際の留意点
 - 身体表現へと発展させていく工夫

受講資格：「身体表現論演習」と同時に「身体表現論」が受講可能であること

評価

授業への取り組み方を基本とし、レポート・記録ノートの内容等から総合的に判断する。

平常点60%、レポート40%で評価する。

出席回数10回未満の場合は単位を認めない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】マリオン・ゴーフ 『ダンスの教え方・学び方』 玉川大学出版部

柴真理子 『身体表現』 東京書籍 781.4/S

科目名	児童養護論		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

子どもや子どもの育つ環境はさまざまな様相を持つものである。その中でも専門的な援助が介在することが子どもや親にとって適する場合がある。子どもをめぐる諸問題や支援体制について児童養護の立場から理解を深め、さまざまな角度から物事を見つめ、柔軟かつ適切な判断・援助について考えていく。

内容

児童養護とは何か、健全に育つとは何か、子どもが育つとは何かを切り口に以下のテーマを取り上げていく。

1. 子どもをめぐる諸問題について
生活リズムの乱れ、児童虐待、知的障害、発達障害、少年非行など
2. 子育て支援・地域支援について
子育て家庭の諸問題(育児疲労、育児困難、経済的支援 など)
子育て支援期間と地域のつながり
3. 子どもの育つ環境と児童福祉施設について
児童福祉施設(乳児院、児童養護施設、障害児施設、児童自立支援施設)での子どもの生活と養護
施設養護(養育者)による子育てと独自の対応
人と人をつなぐ現場実践(絵本の読みあいを行なった臨床事例の紹介)
4. 保育者の役割と他職種連携について
支援の質的向上と施設職員のメンタルヘルス
他職種の職務と専門職連携

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末レポート(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[教科書] 毎回プリント資料を作成し配布する

[参考図書] 森田喜治 『児童養護施設と被虐待児-施設内心理療法家からの提言-』 創元社

[参考図書] 内山元夫 『子どもの社会的養護・・・事例を通して考える・・・』 学苑社

科目名	児童養護論		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

少子化時代において子どもが減少しているにも関わらず、親元で生活することが出来ず、社会的養護のもと福祉施設で生活する子ども達の数には年々増加の一途を辿っている。また、施設での生活には至らないものの、社会的養護の対象となる子どもたちも多く存在している。

この授業では、子どもたち一人一人の「生きる喜び」を見出しその生活を保障するために、社会的養護が果たすべき役割とはどのようなものかを考えていく。また社会的養護が必要な子どもたちにどのような支援が必要でありいかにしてその支援を実践していくかについても考えていく。

さらには子ども達が健全な日常を送るために保育者としてあるいは一個人としてどのような実践をしていけばよいかについて考えていきたい。

内容

社会的養護が必要な子どもたちとはどのような状況(環境)にあるのかを知ることから始め、子どもたちの現状を理解するために、さまざまな文献、資料(視聴覚教材を含む)をもとに直面している課題と今後の展望についてディスカッションを通して学びを深めていく。また社会的養護の段階までには至らずとも子どもの育つ環境として望ましくない場合も現実の場面では多い。そうした親子についてどのような支援が出来るのか、また子ども抱えている要因、親が抱えている要因、社会的環境要因についても学んでいく。

以下に述べるテーマを取り上げていく。

1. 現代の子育て事情と社会的養護を必要とする子どもの現状
虐待の問題について考える(3回)
2. 乳児院での「暮らし」と養護(1回)
3. 児童養護施設での「暮らし」と養護(1回)
4. 児童自立支援施設での「暮らし」と養護(1回)
5. 障害児施設での「暮らし」と養護(1回)
6. 里親制度と「暮らし」そして養護(1回)
7. さまざまな施設での子どもの健全育成(1回)
8. 子どもの要因: 発達障害を中心に考える(3回)
9. 親の要因(1回)
10. 社会的要因(1回)
11. まとめ(1回)

評価

授業内でのグループディスカッション及びグループワークへの参加度(30点)、授業内でのレポート(20点)、最終課題(50点)により総合的に評価します。60点以上を合格点とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で参考文献等を随時紹介していく。

科目名	児童養護論演習		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期科目「児童養護論」で学んだことを発展させ、子どもや子どもを育てる環境の諸問題と密接に関わりをもつ児童養護の役割・社会的な責任と期待について考えていく。また、保育者による実践記録・時事問題・臨床事例・ビデオ視聴等を通して知識と実践をつなげ、柔軟かつ適切な判断力と実践力を養うことを目的としている。また、受講生の施設実習(保育所以外)の報告も取り入れ、実感からの学びとして取り上げていく。

尚、4年次の卒業研究に児童養護関連を選ぶ学生は履修していることが望ましい。

内容

保育者による実践記録、文献講読、手記・時事問題、ビデオ視聴、実習体験等を通して探究していく。受講者の関心のあるテーマをまとめて発表し、ディスカッションを通してより深めていきたい。

取り上げる内容の目安として以下に示す。

1. 支援を要する子どもと保育者の役割(養育における援助、発達支援、施設養護)
2. 施設養護や里親における生活援助
3. 子育て家庭への支援と実際
4. 環境や心身に障害をもつ当事者・家族の障害受容
5. 子どもの人権、施設職員の職場環境とメンタルヘルス

評価

担当分の発表(50点)、グループディスカッション等の取り組み(30点)、小レポート(20点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内に適宜紹介する。

科目名	児童養護論演習		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会的養護が必要な子どもたちの心理的ケアについて学ぶ。さらに子どもの支援のみならず、家族支援、地域支援、保育所・幼稚園・学校・専門機関との連携などとの関係を踏まえながら、子どもの育ちを支えるためにできることについて幅広く探ることとする。

グループディスカッションやグループワークを通して学生自身が協力しながら相互学習することを求める。積極的に問題意識を持ち、自分から探求しようとする意欲が求められる内容となる。

受講生の関心をもとに文献の購読、事例研究の分析、児童福祉に関する時事問題等を中心に考えていく。また子どもの心理的ケアについて、具体的事例を取り上げ、心理学的観点から考えていくこととする。

最終的には受講生自身が持つ子ども観がどのようなものかを自覚し、その上で自身が実践できる支援についての考えを具体的にイメージ出来るようにすることを目標とする。

内容

取り上げる内容としては以下に示すが、グループワーク等をなるべく多く取り入れながら進めていく。また受講生と相談しながら取り上げる内容等を随時決めていく。

1. 社会的養護を要する子どもの現状を理解する(3回)
2. 保育者としてどのような心理的ケアを行うことができるか(3回)
3. 特別なニーズがある子どもたちを理解しその支援について考える(3回)
4. 家族支援とは何か、親子関係を考えることから始める(3回)
5. 児童福祉に関する自己課題についてまとめる (3回)

評価

授業内での小レポート(20%)、授業への参加度(20%)、自己課題に即した調査研究(40%)、グループワークの発表(20%)などから総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名) 授業内に適宜参考文献を紹介する。

科目名	幼児運動論		
担当教員名	杉原 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、「子どもと運動」での理解を基礎として、さらに専門的に運動発達について学び、幼児運動論演習へとつなげる科目です。

この授業では幼児の運動能力のとらえ方と実施方法、ならびに結果の利用法としての運動指導について講義と実習を行います。

学修目標は次の3点です。 幼児の体力と運動能力の概念を理解する。 幼児の運動能力検査法について知り実施できるようにする。 運動能力検査の結果に基づいた運動指導の方法について理解する。

内容

1	体力、運動能力とは
2	幼児の運動能力のとらえ方
3	幼児を対象とした運動能力検査
4	幼児運動能力検査の実習 1
5	幼児運動能力検査の実習 2
6	幼児運動能力検査の実習 3
7	幼児運動能力検査の実習 4
8	幼児運動能力検査の結果の処理
9	幼児運動能力検査の結果の解釈
10	幼児運動能力検査の結果の個人的利用
11	幼児運動能力検査の結果の集団的利用
12	最近の日本の幼児の運動能力の現状
13	幼児の運動発達に影響する環境
14	運動発達と遊びとしての運動指導
15	まとめ

評価

課題レポートとその発表(70点)、通常の授業態度(30)。三分の二以上出席することで評価を受けることができます。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

岩崎洋子編 保育と幼児期の運動遊び 萌文書林

必要に応じて資料を配布する。

科目名	幼児運動論演習		
担当教員名	杉原 隆		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目では、「子どもと運動」、「幼児運動論」で学んだことを基礎にして、幼児の運動についてさらに専門的に深く理解し、卒業論文につながるようにします。

幼児の運動について自分が関心を持ってことごとについて調べて発表します。

学修目標は、以下の4点です。 文献検索や収集の方法について実習する、 文献の内容について理解を深め発表する、 研究の進め方について学ぶ、 研究論文の書き方について学ぶ。

内容

幼児の運動に関連して、自分が興味・関心を持ったことごとについて書かれた著書や論文をデータベースを利用して検索収集し、それらの内容について検討し理解を深める。さらに、要点をまとめプレゼンテーションを行う。

これと並行して、幼児期の運動発達とその指導について書かれた英語の文献を購読する。

評価

収集した論文のまとめ方(40点)、プレゼンテーション(30点)、日常の授業態度(30点)。三分の二以上出席することで評価を受けることができます。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜指示します。

科目名	児童文化史		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「児童文化」の各論にあたる講義である。よって、すでに概論である「児童文化」を履修している学生を対象とする。「児童文化」という広い領域から、日本における物語絵を取り上げ、系譜をたどっていく。絵本などに、特に興味・関心を抱く知的好奇心に溢れた学生に向けたものである。

日本は現在、優れた絵本やアニメを創り出している。物語を絵によって表現する「物語絵」は、いつ頃から、どのように誕生してきたのだろうか。日本における物語絵の変遷をたどることにより、絵本やアニメ文化の豊かな背景を探っていく。

内容

- 1 日本のにおける最初の物語絵
- 2 絵巻物の世界
- 3 お伽草紙絵巻
- 4 熊野比丘尼による絵解き
- 5 奈良絵本
- 6 丹緑本
- 7 渋川版「御伽文庫」
- 8 赤本・黒本
- 9 漫画
- 10 おもちゃ絵のなかの物語
- 11 覗きからくり
- 12 写し絵、影絵
- 13 ペープ・サート
- 14 アニメーション
- 15 映画

評価

レポート成績(100%)によって評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

- 『日本のこどもの本歴史展 図録』 日本国際児童図書評議会 1986
- 『はじめて学ぶ 日本の絵本史 ~ 』 ミネルヴァ書房
- 『紙芝居文化史』 萌文書林

『年表 日本漫画史』 臨川書店

『日本のアニメ全史』 テン・ブックス

科目名	児童音楽文化論		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

日本の“子どもの音楽文化”について学ぶために「日本音楽教育史」「音楽教育学」「日本童謡史」などを学び、現代の子どもと音楽のかかわりを考えていきたいと思う。

本来の意味での邦楽は「浄瑠璃」「能楽」「三曲」を代表とし、日本の「わらべうた」や「こもりうた」「神楽」などを総称したものである。日本の音楽文化の歴史を追い音楽教育とは何をすべきなのか、現場の子どもたちにはどのように音楽文化を伝えていくべきかをじっくりと考えていきたい。

日本音楽の歴史と日本音楽教育史の関係は、相反するものが見え隠れする。教育の現場での音楽教育を進めながら、日本独自の音楽を受け継いでいく複雑な日本の社会の現状。

確かな「音楽」の概念をしっかり持ち、保育現場で生かせるような授業展開を進める。

内容

第1回～第4回 邦楽の、国楽、雅楽などの歴史とその背景

第5回～第7回 日本の「わらべうた」「こもりうた」

第8回・第9回 明治時代の「唱歌」

第10回・第11回 大正時代、昭和前期における「童謡」

第12回～第14回昭和時代後期・戦後の「こどものうた」「幼稚園教育要領」「保育士指針」に書かれている「表現」との関係。

評価

授業の第15回目に行う。

半期学んだ中から、自分の興味を持ったテーマでまとめて書く。

参考書、ノートなどの持ち込みは不可。90分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】町田嘉章他編 『わらべうた』 岩波書店

増本伎共子 『雅楽入門』 音楽の友社

丸山忠璋 『田村虎蔵の生涯』 音楽の友社

科目名	児童音楽文化論演習		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育現場で日々の保育に役立つ「紙芝居」「パネルシアター」「おはなし」「指人形」その他いろいろな活動の中から、“音楽を効果的に入れての実演”を行っていく。簡易楽器、エレピアン、CDなどふさわしい楽器を選んで、豊かな文化財を子どもたちに提供する学びを進める。

内容

保育現場に於いては、保育の中で子どもたちに「えほん」「紙芝居」「おはなし」「指人形」などを保育者が一人で提供する場合が多い。それらの教材に音楽的效果を入れさらに内容を深く子どもたちに提供できるようクラビノーバや簡易楽器、ピアノなどを使って進めていく。

また、保育者が多数で行う人形劇などなどにも音楽効果を入れていけるような使用を考える。

どちらもあらゆる楽器やあらゆる音楽ジャンルを駆使しより効果的な文化財として授業で工夫をしていきたい。

- 第1回～第3回 身近な簡易楽器の利用における活用
- 第4回～第5回 CDなどを利用したオーディオ機器からの活用
- 第6回～第8回 ピアノを利用しての活用
- 第9回～第11回 クラビノーバ使用の活用
- 第12回～第14回 総合的な活用
- 第15回 まとめ

評価

授業に対する取り組み、熱意などで評価する。

特にレポートやテストは行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】

イソップ物語。グリム童話。日本むかしばなし。世界のお話。

科目名	児童学特別講義		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童学特別講義は、乳児から児童に至るまでの子どもの発達やその特性を理解し、その生育にいかに関わることが望ましいかについて学ぶことが主眼である。

その一つの視座として「子どもの造形行動を通し、その発達や特性を知る」ことは具体的な学びとなる。

科目の概要

人間が生きる手段として表現行動は重要である。その表現行動のひとつとして造形表現は欠くことができない行動である。その造形表現の行動は乳幼児・児童と大人と共通した行動もあれば、大きく異なる行動もある。そうした同一性と異文化性を持っていることを認識することは乳幼児・児童教育の立場だけでなく、ひろく人間の営みとして理解することになり重要である。

学修目標

そのために乳幼児の造形表現に潜む意味や特徴的な表現の意味を学び、幼児期から児童期の発達過程について学び、その表現をどう読み取るのか、どのような援助方法や対応があるのか...について体得していくことがねらいである。

内容

子どもたちの実態をスライドやビデオなどで知ることや、実際の幼児画を見るなど具体的な資料を基に、観察・鑑賞・検証・考察を繰り返して、直接体験的に認識を積み上げながら学ぶ。つまり、子どもたちの独特な表現法やその読み取り方を体得し、適切な援助の仕方を体得することである。そうした中で大人との共通性(同一性)もおのずと理解されることになる。

1～2 1. 表と現と 「乳幼児独特の造形表現法について」

3～5 2. 幼児画の発達段階

- ・描き始めのころ(Scribble期・1～2歳ころ)
- ・伝達の喜び(象徴期・3～4歳ころ)

6～10 3. 幼児・児童画の特徴 「子どもの絵の読み取り方」

- ・共感する意義とそのポイント

11～15 4. 気になる、心配になる絵への理解と対応

- ・ストロークのもつ意味
- ・色彩心理との関わり

授業中に示した子どもの絵をデジタルカメラで撮影し、分類し資料にする。

評価

講義と実習を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分のための資料集(60%)とすること。そのスケッチブックによって造形表現を手がかりとして子ども達と関わる感性、意欲(40%)を評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

林 健造著 『異文化としての幼児画』 フレーベル館刊

科目名	卒業研究		
担当教員名	赤井 美智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	金勝 裕子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	曾我 淑人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

* 詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	野口 隆子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	平田 智久		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	向井 美穂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-児童幼児教育学科 幼児教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学における幼児教育の学びの総まとめとして、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、指導教員の指導・援助を得ながら、探求し、その成果を個々の学生が論文にまとめ、報告を行う。

内容

各研究室において、グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて、

- ・ 研究テーマを見だし、焦点化する
- ・ 研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる
- ・ 論文にまとめる

論文の締め切りは平成24年1月上旬の予定。

*詳細の日程は4月に通知する。

また、論文提出後、研究発表会をおこなう。

評価

論文の成果だけでなく、プロセスも重視する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて、参考図書の紹介や資料の配布を行う。